



# ADVANCE OF Z

ティターンズの旗のもとに

## Vol. 4

### CONTENTS

(カラーピンナップ)  
ガンダムTR-1[ヘイズル・ラー] [描き下ろし]

Vol. 4既刊ガイド

EPISODE 4 5  
【初出】 電撃ホビーマガジン2005年3月号

EPISODE 4 6  
【初出】 電撃ホビーマガジン2005年4月号  
ガルバルディB高機動型設定解説  
【初出】 電撃ホビーマガジン2005年5月号  
ハイザック・キャノン設定解説  
【初出】 電撃ホビーマガジン2005年6月号

EPISODE 4 7  
【初出】 電撃ホビーマガジン2005年7月号

EPISODE 5 0  
【初出】 電撃ホビーマガジン2005年8月号

EPISODE 5 1  
【初出】 電撃ホビーマガジン2005年11月号

ガンダムTR-1[ヘイズル・ラー]  
イカロス・ユニット装備設定解説  
【初出】 電撃ホビーマガジン2005年11月号

ガンダムTR-1[アドバンスド・ヘイズル]設定解説  
【初出】 電撃ホビーマガジン2005年12月号

EPISODE 5 2  
【初出】 電撃ホビーマガジン2006年1月号

キャプタンTR-5[ファイバー]設定解説  
【初出】 電撃ホビーマガジン2006年1月号

ガンダムTR-1[ヘイズル・ラー]  
G/ベース[フルド]設定解説  
【初出】 電撃ホビーマガジン2006年1月号

ハイザック・キャノン [1/144]  
【初出】 電撃ホビーマガジン2006年3月号

ガンダムTR-1[ヘイズル・ラー]  
サブ・アーム・ユニット装備 [1/100]  
【初出】 電撃ホビーマガジン2006年2月号

ガルバルディB [1/144]  
【初出】 電撃ホビーマガジン2006年5月号

ハイザック・キャノン高機動型装備  
【初出】 電撃ホビーマガジン2006年6月号

ガルバルディB高機動型 [1/144]  
【初出】 電撃ホビーマガジン2006年7月号

ガンダムTR-1[ヘイズル・ラー]  
イカロス・ユニット装備 [1/144]  
【初出】 電撃ホビーマガジン2006年8月号

ハイザック(連邦カラー) [1/144]  
【初出】 電撃ホビーマガジン2006年8月号

HGUCガンダムTR-1[ヘイズル・ラー] [1/144]  
【初出】 電撃ホビーマガジン2006年10月号

[HGUCガンダムTR-1[ヘイズル・ラー]] 連載ガイド完全版  
【初出】 電撃ホビーマガジン2006年11月号

ガンダムTR-1[ヘイズル・ラー]実戦配備カラー [1/144]  
【初出】 電撃ホビーマガジン2006年11月号

ガンダムTR-1[ヘイズル・ラー]  
【初出】 電撃ホビーマガジン2006年12月号

HGUCガンダムTR-1[アドバンスド・ヘイズル] [1/144]  
【初出】 電撃ホビーマガジン2006年1月号

HGUCガンダムTR-1[ヘイズル・ラー]  
+アドバンスド・ユニット [1/144]  
【初出】 電撃ホビーマガジン2006年1月号

キャプタンTR-5[ファイバー] [1/144]  
【初出】 電撃ホビーマガジン2006年1月号

表紙イラスト ガンダムTR-1[ヘイズル・ラー]ガンダムTR-1[アドバンスド・ヘイズル]キャプタンTR-5[ファイバー] (※ 敬称略)

電撃ホビーマガジンズヘジャル

# ADVANCE OF Z

アドバンス・オブ・Z ティターンズの旗のもとに

Vol. 4

このムックは電撃ホビーマガジンにて好評連載中の  
「アドバンス・オブ・Z ～ティターンズの旗のもとに～」の  
連載第29回(2005年2月号)～第40回(2006年1月号)までに  
掲載された記事を再録(一部再編集)したものです。  
そのため、文章中に時節のあていないものも多少あります。  
あらかじめご了承ください。

A 0 Z掲載事項 100

発行 102

## T3部隊配備機

U.C.0085年8月の試作アッシャーTR-3(キハール)配備以降、T3部隊には、可変MSやガンダムTR-1(ヘイズル)を元に改修・改造が行われた機体など、続々と新たな機体が配備された。ここでは、登場年月およびEPISODEナンバーが一目でわかるように紹介する。

# ADVANCE OF Z

ティターンズの旗のもとに

「アドバンス・オブ・Zの世界」

RMS 117

カ117 シチーB基礎機型

大規模改修を行わず、カ117/Uルティアの性能を強化するための万策の一つとして、ブースターユニットを装備した機体。ヘイズルのブースターシールドを2つ装備可能であるようになっている。だが、ハイゼルの75mmガンナー大銃が機体を持ってユウゴに渡したため、シールド・ブースター装備実験は行われなかった。

U.C.0086年2月  
[EPISODE4 (I)]

YRMS-106C

「イザックキャノン」

先代ジム・スナイパーⅡに装備されたテストが行われた中継装置ユニット「キャノンバック」をイザックに装備したもの。

U.C.0086年1月  
[EPISODE4 (I)]U.C.0085年10月  
[EPISODE3 (I)]H-4  
「H-4」

MSを母とした大気圏突入用モジュールとして開発。大気圏突入形態→MA形態→MS形態と状況に合わせて形状移行を行うことができる。

MA形態

U.C.0087年3月  
[EPISODE5 (I)]

MA形態

QRX 005

キー「TR-51ファイバ」

高高度攻撃用の可変MA。ギルバートンベールス機として、「第99独立空軍第1飛行連隊」に特化した機体として開発された。

## ヘイズル開発史

U.C.0084年12月  
[EPISODE 1]

RX-121  
ガンダムTR-1  
「ヘイズル」  
ジム・クワールをベースに  
ガンダムタイプの関節ユニ  
ットと各種機パーツを装着  
することによって開発され  
た実験機

U.C.0085年10月  
[EPISODE 2]

改修

RX-121-1  
ガンダムTR-1  
「ヘイズル改」

シオン機開発との関係で大  
量したマーフィ製品のヘイ  
ズルをコンバインに搭載  
されていたジム・クワール  
のパーツとアスウィンにス  
トックされていたヘイズル  
用の予備パーツで修理した機体

U.C.0085年8月  
[EPISODE 3]

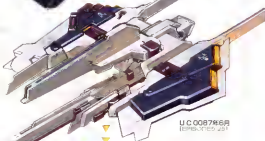
121-2  
ガンダムTR-1「イフル」2号機

ヘイズルのパーツ交換用の予備機としてアス  
ウィンに配備されていたジム・クワールに、ヘイ  
ズルヘッドとドライブスロウユニットを移植。  
これを機に改造機として用いられる。

+ 合体

FF-X29A  
[フルド]

TR-1「ヘイズル改」用に  
開発された「ワーアッパ  
メ」である。単体で独立  
した駆動メカとして運用  
できる。フルドとサ  
ーアーム・ユニットなど、機  
体のオプションパーツとの  
併用も可能。

U.C.0087年6月  
[EPISODE 5]

改裝



フルド

ヘイズルが機体を改修し、駆動強化パ  
ーツやマルエウズボンラッチを装着  
して、仕様がヘイズル改と統一した機  
体である。機体の両側にサ  
ーアーム・ユニットを  
追加し、機体前方にス  
ターユニットを追加。  
T5機体で行った色  
調オプションパーツのテスト結果を  
すべてフィードバックして製作され  
たこの機体は、機体設計におけるヘイ  
ズルの完成形とされる。



RX-121-2  
ガンダムTR-1「ヘイズル改」

ヘイズル改に①「ワーアッパメ」を装着した状態の機体  
外形。サブ・センサーや機体表面も統一された「フルド」  
を装着することで、ヘイズル改の機体設計を第2世代  
MSに近接するレベルにまで向上させたものの、

U.C.0087年6月  
[EPISODE 5]

### T3部隊と敵対組織

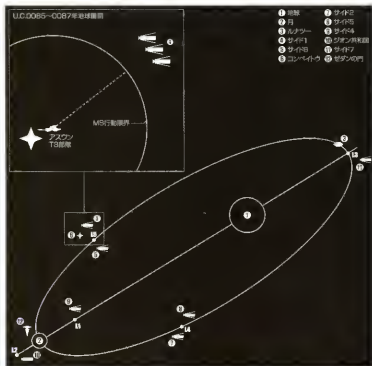
ディターンズ・テスト・チーム(以下T3部隊)は、EPI-  
ISODE4まではジオン軍残党と戦ってきた。そして、  
この総集編Vol.4掲載のEPIISODE5からはエゥーゴ  
との戦いがメインとなる。そこで、彼らの周辺組織を  
あらためて紹介する。

ジオンの系譜に繋がる者たち



## A.O.Z宇宙年表と T3部隊行動地図

- 0083.12.04 ジャスト・ハイマン演劇により「ティターンズ」結成。旧公団管轄地が活発化。
- 0084.05.17 連邦統合。地球連邦の現状維持を確保
- 0085.05 T3部隊、サイド1・25/パンチにてジオン連邦と交戦。
- 0085.07 T3部隊、サイド1・30/パンチでの大規模な作戦のサポートのため出陣。
- 0085.07.31 30/パンチ事件。ティターンズがサイド1・30/パンチに毒ガスを注入し住民を毒殺。近衛城連邦軍編（A.E.U.G.＝エーウ）派発化
- 0085.08 T3部隊、ジオン軍現況との戦闘でTR-1大敗。
- 0085.09.08 グリプス、サイド7に降参。
- 0085.10 TR-1の修理が完了。改定通称が「RX-121-1」に。
- 0086.10 T3部隊、TR-3の重力下テストのため地上のハルバーム基地へ。
- 0086.02.08 アクシス、地球連邦に向けて降参
- 0087.03.02 エーウ、グリーン・ノア1より試作MS兵器を開発
- 0087.03.18 エーウ、太陽電池衛星を開発
- 0087.03.18 アーガマ、サイド1・30/パンチに入港
- 0087.03.28 アーガマ、ファンタム市に入港
- 0087.04.28 最後の本軍、エネルギー電池搭載ジュビリス地帯に降参
- 0087.05.03 アーガマ、デンプテーションと接触。ブライ・ノア、エーウに参進
- 0087.05.11 エーウ、地球連邦軍基地シブローを攻撃。最終結果明らかにより基地は破壊。カラバと合流
- 0087.05.22 エーウのMS部隊とカラバのアウトラム、ケネディ基地に
- 0087.06.08 ティターンズ、ルナ首領城にグリプス2、旧ア・バはア・クーを移動。手塚達「ゼダンの門」完成
- 0087.06.29 ティターンズ、ホンコン・シティを占領
- 0087.07.05 アウドムラ、ホンコンシティを出陣
- 0087.08.10 ティターンズ、「アサロ作戦」を開始。フォン・ブラウン市を襲撃
- 0087.08.18 連邦軍会でティターンズの降参を大規模に強化する法案が可決される
- 0087.08.17 エーウの指導者ブラック・フォード降参。降参される
- 0087.08.24 ティターンズ、ダラナダ市にコロニー落としを試みるが失敗
- 0087.09.14 ティターンズ、サイド2基地に降参を継続
- 0087.09.21 ティターンズ、サイド2・25/パンチに毒ガス攻撃を仕掛けるが失敗
- 0087.10.05 ティターンズ、フォン・ブラウン市の一部と衝突を継続
- 0087.10.12 アクシス、物々しに降参
- 0087.10.14 エーウ、アクシスに降参を拒否するが交渉は決裂
- 0087.10.15 ティターンズとアクシス、連合を結成
- 0087.10.18 アーガマ、補給と修理のためブリアンローズと接触
- 0087.11.02 エーウとカラバ共謀。キリマンジャロの連邦軍基地を襲撃
- 0087.11.03 キリマンジャロ基地降参。ジャミトフは宇宙決戦へ参加
- 0087.11.16 エーウ、ダカールの連邦軍会を占領。全世界にティターンズの降参を告発
- 0087.11.24 アーガマ、補給のためサイド2・13/パンチ（メルガルトン）へ入港
- 0087.11.30 エーウ、ゼダンの門を襲撃
- 0087.12.07 ティターンズ、グリプス2のコロニーレーダーでサイド2・18/パンチを襲撃
- 0087.12.14 ティターンズ、サイド2・21/パンチに毒ガス攻撃。住民は全員死亡
- 0088.01.18 アクシス、ゼダンの門を襲撃。グリプス2を占領。小惑星帯地アクシスはダラナダへの降参計画に入る
- 0088.01.26 アクシスとティターンズの交渉が決裂。ジャミトフ死亡。以後、シロクがティターンズの全権を掌握
- 0088.02.02 エーウ、「メルシュトローム作戦」発動。降参によりグリプス2を占領。アクシスの降参決定に成功
- 0088.02.20 エーウ、アクシス、ティターンズによる降参開始
- 0088.02.22 エーウ、コロニーレーダーでティターンズの降参を拒絶させるが、重力の過半数を消失







# TRIAL A.O.Z

2006年3月号より始動!!  
(2006年1月25日発売)

「A.O.Z」関係の様々な記事＆商品展開を豪華に盛り込んで盛りだくさんな一大プロジェクト、それが「TRIAL A.O.Z」だ。その第1企画として、2006年1月から3ヵ月連続でホビーマガジンとホビーマガジン増刊号にバクオリアティフィギュア付録（協力/バンダイ・バンダイ事業部）が付く。その他、「MOBILE SUIT IN ACTION!!」の誌上連載をはじめ、2006年には様々な展開が予定されている。

アバックス・オブ・Z

## Stage 3

MSセレクション  
ガンダムTR-1  
[ハイズル改] 高橋敏雄社  
ホビーマガジン4月号増刊『ホ  
ビーマガジンEX』(2006  
年3月16日発売)の付録。新機  
種の「アバックス・オブ・Z」  
とスタンダードが付いてくる。

## Stage 1

MSセレクション  
ガンダムTR-1  
[ハイズル改] 高橋敏雄社  
ホビーマガジン2005年3月号  
付録。2004年10月号増刊  
『高橋敏雄カラーバージョン』に  
バリエーションした。このカラーバ  
リエーションは、このカラーバ  
リエーションで統一となる。

## Stage 2

HGIF  
オードリー・エイプリル  
ホビーマガジン4月号増刊『高橋敏雄カラーバージョンEX』(2006年2月16日発売)の付  
録。高橋敏雄カラーバージョンの1/100スケールでHGIF規格のフィギュアである。

## A.O.Z関連付録 電撃HOBBYマガジン一覽

- 2002年12月号巻A.O.Zマナーキングス/定価 980円
- 2003年1月号巻1/100 プラモデル ガンダムTR-1 [ハイズル改] ヘッドパーツ/定価 980円
- 2003年3月号巻ガンダム アルティメットオペレーション RGC-790 シム改 ティターンズアストナウ  
ト/定価 980円
- 2004年1月号巻1/144 プラモデル ガンダムTR-1 [ハイズル改]/定価 980円
- 2004年10月号巻MSセレクション ガンダムTR-1 [ハイズル改] & マーフィール 高橋敏雄ピンズ/定価 980円
- 6月号記念増刊号vol.1 1/100 プラモデル ガンダムTR-1 [ハイズル改]/定価 780円
- 8月号記念増刊号vol.2 1/100 プラモデル バイザックTR-2 [ビザック改]/定価 830円
- 6月号記念増刊号vol.3 1/100 プラモデル ガンダムTR-1 [ハイズル改] 2月号巻/定価 830円
- 6月号記念増刊号vol.4 1/100 プラモデル 試作アバックスTR-3 [キハール]/定価 830円
- 2005年8月号巻組み込み付録 [KONPETTU AR-SIGNAL REPORT]/定価 1,000円
- 2005年10月号巻ADVANCE OF Z OFFICIAL ART BOOK VOL.0 [アバックス・オブ・Z] 設定資料集/定価 980円
- 2005年12月号巻組み込み付録 [U.C.0088 TRIAL REPORT]/定価 830円
- 2006年1月号巻ADVANCE OF Z MODELS MATERIAL A.O.Z モデリングマテリアル/定価 980円
- 2006年2月号巻1/144 プラモデル[パーツ] [FRF]/定価 1,050円
- 2006年3月号巻フィギュア ガンダムTR-1 [ハイズル改] 高橋敏雄カラー。予定 980円
- 2006年3月号増刊フィギュア オードリー・エイプリル。予定 980円
- 2006年4月号増刊フィギュア ガンダムTR-1 [ハイズル改] 高橋敏雄社。予定 980円



「ガンダム公式待ち受け」はガンダム(全作)を厳選したスベニールサイト。バクオリアティは静止画のみの提供は、Paddyカレンダーなど機能別にも充実しているこのサイトです。「A.O.Z」待ち受けが配信されている。今すぐ下の待ち受け画像をゲットしよう!

●対応キャリア  
カラー対応端末 i-mode, EZweb(TUKAを除く), Vodafone live!

■アクセス方法  
1 ga@wpc.jpへ携帯からアクセス  
2 http://wpc.jp/ga/へ携帯からアクセス  
3 2次元バーコードを撮影  
●配信予定期間  
2006年3月25日まで



「A.O.Z」関係の様々な記事＆商品展開を豪華に盛り込んで盛りだくさんな一大プロジェクト、それが「TRIAL A.O.Z」だ。その第1企画として、2006年1月から3ヵ月連続でホビーマガジンとホビーマガジン増刊号にバクオリアティフィギュア付録（協力/バンダイ・バンダイ事業部）が付く。その他、「MOBILE SUIT IN ACTION!!」の誌上連載をはじめ、2006年には様々な展開が予定されている。

「A.O.Z」関係の様々な記事＆商品展開を豪華に盛り込んで盛りだくさんな一大プロジェクト、それが「TRIAL A.O.Z」だ。その第1企画として、2006年1月から3ヵ月連続でホビーマガジンとホビーマガジン増刊号にバクオリアティフィギュア付録（協力/バンダイ・バンダイ事業部）が付く。その他、「MOBILE SUIT IN ACTION!!」の誌上連載をはじめ、2006年には様々な展開が予定されている。







## 電撃ホビーマガジン &amp; サンライズ 共同プロジェクト

# ADVANCE OF Z

ティターンズの旗のもとに

人類が、爆えすぎた人口を宇宙に移住させるようになってから半世紀過ぎた宇宙世紀(U.C.)0079。地球からもっとも離れたスペースコロニーサイド3がジオン公国を名乗り、地球連邦に対して独立戦争を仕掛けた。彼に一年戦争と呼ばれるこの闘いは、地球連邦の勝利に終わった。しかし、ジオン軍の残党は各地に抗争活動に対する抵抗活動を行ったのである。U.C.0083、地球連邦軍はこれらのジオン残党の討伐を目的とする特殊部隊ティターンズを設立。地球圏の治安維持を担った――

宇宙圏公団に向け、最終も高まる

『機動戦士Zガンダム』よりスピントフしたオリジナルストーリー第30話。宇宙に突ったティターンズ・テストチームの船に挑む敵はなんと……?

ザクを先行機としてラビット自律型と決めた。エリアルドは、ヘイセルと機體二機のテストのサポートをする事になった。サボとトウのはテストをしている最中の所、責任も重たい。やがてすべての準備が整い、管制室のモニターが多くの船長の指示が出た。

「出る」

マフイー小隊の音が聞こえる。まずヘイセルがカタパルトから発射された。続くのはカールのハイザック。実行要員はエリアルドだ。エリアルドは、アスランの外に出たところ、星の海に沈んだような気がした。地球の引力から解放された自由の海へだが、それは生命の危機である。地球とは比べものにならないほどの危険に満ちた海なのだ。

「アームを展開する。ヘイセルの胸のモニターを停止。システムをサブアームのコントローラーに切り替える」

機體が軌道上で安定すると、マフイー小隊が動き出す。エリアルドは周囲を警戒しつつ、不測の事態に備えていた。ヘイセルのフットアーマーから筒が伸びる。マフイー小隊は、そのサブアームライフルを張った。

「コピアのターゲットスコアとサブアームが連動しているだろうが、実際に撃つぞ」

マフイーの音が聞こえる。

そのとき、エリアルドはレディーに小さな二つの船を撃った。

「レディーは既にモビサイズのようです」

「即座にスキャンから返事をあつた」

「これでも推測でもない。さういふのは、味方の識別信号を出している。どこからティターンズのクオースか……」

カールの音が聞こえる。「艦隊と手をじゃがい」

マフイーの機體がそれとなく動く。

「どうしてこのあたりでの作戦行動の機体はあるか？」

しばしの間が過ぎた。やがて返事が来た。

「いかなる作戦行動の機体でもない」

「ティターンズの識別信号を出しているというのは間違いないのだな」

「間違いない。今、確認された二機はハイザックタイプだ。ティターンズのモビサイズだ」

# ALERT

## HI-ZACK [GREEN]

## TARGET LOCK

「どうもこれは、豪華いところですね……」

「接近したら、誰何するように」

「了解」

エリアルは、アスラのブリッジとマーフイーの通信を聞いていて、ひどく背を凍らない気分になっていた。

いまや二機のハイザックはかすかに視認できるほどの距離に近づいている。アスラのカラーが驚いたと知り、ハイザックタイプ二機「二機は後方を後退、通信ハイザックエナジス」二機はエリアルたちより下の軌道に降り、急速に移動した。

突然、ハイザックエナジスたちが加速した。進行方向を変えたとはいえる。そして、軌道通過して回頭するやうな動きだ。データリンクを使用する通常の速度で、マーフイーが呼びかける。

「二機はハイザック用と行動の目的を明らかにしろ」

返事はない。あわてて逃げ出すようにも見える。

「繰り返す」

マーフイーが言った。「所屬と行動の目的を明らかにせよ」

やはり返事はない。代わりにアスラのブリッジから入電した。

「テスト小隊、二機のハイザックタイプを追跡し、拿捕しろ」

「了解……」

エリアルは思わず聞き返していた。

「繰り返す。二機のハイザックタイプを追跡し、拿捕しろ」

「了解」

マーフイーが言った。

そして味方のモビルスーツを拿捕しなければならぬ。エリアルには理解できなかったが、ブリッジの指示なら従わなければならない。

すでにハイザックエナジスとの距離は開きつつある。無理な加速すれば軌道から飛び出してしまふ危険もある。いまは慎重に使用してしまふだろう。マーフイーが言った。

「脱走を妨、軌道をせき止りまで上げて速度を上げろ」

「脅して動かさしようか」

カラーの声が聞こえた。二機のは止められるかもしれない。

「よし、撃てたか、当るかな」

「了解」

カラーのハイザックは、先鋒機型が前に出た。ハイ

フルを強制する。

エリアルドも、ハイザックに向かってフルを構えた。味方艦に向かってフルを撃つことには、さがある。ターゲットに相手を選べる。

おっと、曲るもそうわけにはいかない……

エリアルドがトリガーボタンを押すと、その瞬間、ハイザックがよりと反転してマシンガンを撃てた。曲ではない。明らかならうと照っていたエリアルドは驚いた。死に手を出したのはこちらだが、カールは明らかに狙いを外した。

ハイザック・キャノンたちが軌道を上げて、速度を速めた。メスト小隊は待らされているようにも見える。彼らはこちらを向いていた。そして、フルを強制してきた。

「砲を無力化する」

マイファイが言った。「いいか、目的は本機だ。攻撃は避ける。カールは機方を止めた。エリアルド、バグ。ヘイズルがメイス・スラスターを吹かして、物を受け、ハイザックに向かってく。エリアルドはそれに続いた。たちまちドッグファイトとなった。マイファイは直撃は避けると言ったが、ドッグファイトはやるから。カールは、エリアルドは、でもそんな攻撃はならぬ。三對二の戦況が、たぬ。本機が目的のエリアルドと、必死に戦うハイザック・キャノンたちではやり違いが出る。

結局、二機のエリアルドには逃げられませんでした。

「モヒスターンだけでは打撃できない」

マイファイが言った。「どこかに船がいるはずだ」

だが、船影は見えてきなかった。機体密着にでも潜らないものか。

それにしても、彼らは何者か。たのらう。明らかな。ハイザックのハイザックだ。それだと、ステス小隊に捕まえて、連射しようとしたのだらう。彼らは本気で戦闘を仕掛けてきた。アスランが即座に本機を射たのも解に落ちない。

何かが起きている。エリアルドはそう感じていた。

## EPISODE END

NEXT  
EPISODE  
A.O.Z.U.C 0088  
「探索」



人類が、埋すぎた人口を宇宙に移転させるようになったら半世紀経たず宇宙世紀(U.C.)0079、地球からもっとも離れたスペースコロニーサイド3がジオ公団を名乗り、地球連邦に対して独立戦争を仕掛けた。国に一年戦争と呼ばれる戦いの熾い、地球連邦の行状に苛むた。しかし、ジオン軍の発見は各所に派兵連邦に対する監視活動に専らしてのである。U.C.0083、地球連邦軍はこれらジオン発見の討伐を目的とする特殊部隊ティターンズを設立、地球島の激戦役を闘った。

映画版公開に同い、期待も高まる「機動戦士Zガンダム」よりスピノフしたオリジナルストーリー版32話。  
 度された実家が、連林軍兵士という形をとってエアリアルたちに来きつけられる……

## STAFF

原作：宮野由悠季・矢立肇  
ストーリー：宇野 重  
メカデザイン：園田健機  
キャラクターデザイン：菅原卓也  
マーキングデザイン：藤田健機&ベッパー・ショップ  
監定協力：片岡大輔  
企画：電撃ホビーマガジン編集部  
企画協力・監定：サンライズ

©製造エージェンシー・サンディーズ



電撃ホビーマガジン &amp; サンライズ 共同プロジェクト

**ADVANCE OF**  
ティターズの旗のもとに

**EP-SDS 4.6**

000000年0月

# 陸地軍の重要軌道上

ディターンスの識別信号を出していた。機体のイザシクが、テスト小隊に対して敵対行動を取ったことについて、アスワン内部ではさまざまな憶測が飛び交っていた。

公式を説明はない。だが、彼らが反乱分子であることは間違いない。エリアルドには頼じられなかった。

テイタートンズはエリート部隊だ。エリナルドは選ばれた者であるという誇りを持っている。他の隊員もそうだと思っていた。少なくとも、テスト小隊の連中はそうだ。

カーは少々圓折しており、素直にそういふことを口に出しはしないが、ディターンズでいられることに誇りを持っていることはわかる。オードリーもマーフィー小隊長も同様のほずだ。

いや、アスワンの乗員はみな子どもだとエリアルは信じていた。だからこそ、ティターンズ内部の混乱分子という存在が信じられない気分だった。

あの二機のハイザックは、あれからどこへ行ったのだろうか。あのとき、付近にティターニスの船がいなかったことは確認されている。

あのときアスワンはコンベイトウを運る軌道により、同じ軌道線上にはサイド1とサイド4があるがモビルストツのペイロードでは、それらのコロニーまでたどり着くことはできない。  
どこかに船がいたはずだ。そしてそれはタイタリスの船ではなかった。

連邦軍が振らいでいるのだろうか。インズすら一枚罫ではないということか。

エリアルドは、もとがしれた。おそろく誰にも  
たえを知らない。コンペイトウは退屈の地だ。地  
球や他のサイエンスの基地で何が起るというの  
かは、なかなか実感がつかない。  
加えて、エウーゴの動きについてのニュースが、エ  
リアルドたちを驚愕させていた。エウーゴは、反  
地球連邦政府軍活動のことだ。

スペースノイドに対する生態的抵抗するためには組織されたというのが、ティターンズにおいては公式に過激なテロ賛同と認識されていた。いくつかの「ロビー」で、反政府的な集会などを組織していたとは、ヒュアルドも知っていた。

実際の政治運動くらいにはかかっているが、  
さうだが、ある程度の軍事力も揃えているとい  
うことがわかってきた。



「ガルバルディβ……？」

カールが、メカニックのピートに言った。

「RMS-117。ルナツーで開発された  
連邦軍の量産機じゃない」

たが所轄は口塞いで通らない。正規軍の中  
の特設部隊であるティターンズの機ではないとエ  
リアルトは考えた。  
「だが、エリアルトが本気に思うのは、テスト小隊  
の制止を振り切り飛び出した一機のティターン  
ズ機がエウロイアの動きと何か関係があるような  
気がするのではないかと」  
「……関係しているのはわからない。だが、今ま  
でとは少しずつ何かが変わってきてる。エリアル  
トはそれを助けて逃げた」  
「ガルバルディβ……？」  
カールが、メカニックのピートに言った。「月面デ  
ィーフェルタワーで開発された連邦軍の量産機用  
の量産機じゃない」  
「そうだな」  
「ななよんな機がアウロウとやうくあるぞ」  
「月面ディフェルのテストがしたいさうだ」  
「カールの機體はエウロイアとは思わずピートに  
尋ねた」  
「機體バリエーションだな」  
「量産機化のために、フーディーなんかもうつけ  
るシステムを撤廃するんらう」  
「具体的に言うとう」  
「ヘイスルのシールドブラスターがあるだろう。あ  
れなんか二重取り付けたらいいさう」  
「へえ……」  
「それより、機に変わるのはさ……」  
「ピートが言った。「ガルバルディβ」というし、バ  
イロトが言うところだと、テストなら、  
機体だけ送り込んでみるならには仕方が  
ないさうだ」  
「受難があるんじゃないの」  
「カールが言った。「その機体」も、テストなんか  
で壊されたくないでいいバイロットの気持で、わ  
かれないじゃないか」  
「……」  
「ピートが言う。「メカニックの機には、理解でき  
ない」」  
機体の構造を演習させたバイロトが、リゾジカ  
ら居住区に降りてきた。ちまたでテスト小隊のフ  
リーファイティングが終わったとまで、披露させる形  
になった。  
ティターンズではなく、地球連邦軍の量産  
部隊の制服を着ていた。金色の髪を短く刈りてい  
る。髪は灰色だった。  
「マキシム……」





# EPISODE END

NEXT  
EPISODE

A0ZUC0088

「軍艦」

「エウロイは、今やたの度故府運動じゃない。故府でかなりの軍艦を調達していいし、海軍軍をどうにか集め込みつある。そとく、艦アースライドという艦アース運動までも集め込んだという話もある」

「ジーン・スライムがエウロイの手を助かると……」

「グナー・本則は、聞かすはめてみせ」

「そういうところもあるかもしれない。敵の艦は味方という考え方もある」

「エウロイ・ジョン様……」

「エリアルドは言った。それはエリアルド同士が手を結ぶということじゃないです」

「エリアルドにはもう思えた。旧ジオン軍の工廠と度故府運動が手を結ぶ。それはエリアルド船団以外の何物でもない。グナー・本則はエリアルドを見て、皮肉な笑みを浮かべた」

「ディーンは正義の旗で、それ以外にみんなは船をロストが……」

「畢竟そうじゃないです」

「おまえさん、非がよ……」

「グナー・本則は、艦を調アースライド小隊の船から去っていた」

「スラバブルががががしたのは、それから地球時間で十六時間後のことだ。まず、当番の艦小隊が出で、次にエリアルド小隊にも出撃命令が下った。近衛不明の艦隊がスラバブルに突進する軌道上に、約十五分後に艦接近する……」

「ハンター中尉、エリアルド小隊、出ます」

「カタバルトにより、宇宙空間に出る。姿勢を制御しつつ、周囲の状況を把握しよう」と、突然、急電が流れた

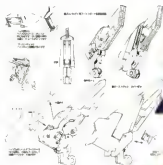
「何者だ？ カタバルトを勝手に使う」

「カタバルトに懸けてるのは誰だ？」

「エリアルドは、ヘイエル・ムーンを反応させた。ヘイエル・ムーンは、ヘイエル・ムーンを、何かが飛び出した。カタバルト……エリアルドは……」

「……、何かが起きているんだ」

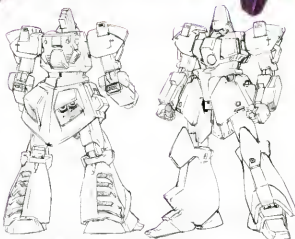




強化パーツの中途を破すブースター・ポッド、ヘイズルに隠蔽されているブースター・ポッドと同等のもので、対艦の遠距離ラッチアップ・アクション戦術を行けることもできる。



遠征艦での新式兵器カウラー仕様。当初はこのカラーであったが、強化パーツのテストのため73機等へと送られた機に異なる塗装に変更された。



強化パーツを取り外した状態のガバルディア。基本設計は一年戦争当時のものであるが、遠征軍による近代化改修により現在でも前線部隊として前線部隊で運用されている。

## RMS-117 ガルバルディア

ガルバルディアは、一年戦争末期にジオン軍が開発していた当時の最新鋭機MS-17ガルバルディアを、戦後連邦軍が接收して改修を施し完成させたMSである。コクピットのリアシート化を始め、OSなども最新の仕様で換装されているほか、外装が全面的に改修されたことにより機体の軽量化がなされているなど、数々の近代化改修によりU.C.0086年現在でも第一線で使用されている。機体の生産は連邦軍の宇宙基地ルナツーで行われており、その多くがルナツー駐留部隊を中心とした宇宙警備の部隊に配備されている。



## RMS-106C ハイザックキャノン

先にジム・スナイパーに装着されテストが行われた中部離支援ユニット、『キャノン・バック』をハイザックに装着したもの。ハイザックは、このようなユニット換装による柔軟な機体運用が開発段階からコンセプトとして盛り込まれており、ほぼ無改造でユニット換装に対応することができる。胸部には、離脱可能な汎用追加装甲ユニットが装備され、様々なタイプの装甲システムがテスト可能となっている。



機体の増設装甲ユニットは汎用機用パーツのため、マラサイへの設置も可能である。

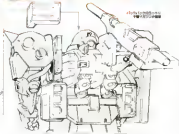
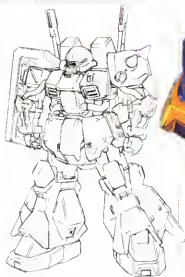


ディターンズ版試作カラーバージョン。同一の機体をユニット換装により様々な用途で活用することも、開発コストの削減が行われている。

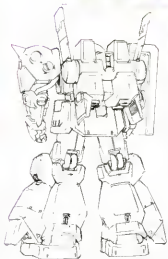


## RMS-106C HI ZACK

量産版のハイザック。73歳でテストを行った先行量産型が各部分で多少の改良が見られる。



スラスターとキャノン砲が一体化したキャノン・バック。肩部のラッチには手動でガンジンを調整することができる。





人類が、増えすぎた人口を宇宙に移住させるようになってから半世紀過ぎた宇宙世紀(U.C.)0079。地球からもっとも離れたスペースコロニーサイド3がジオン公国を名乗り、地球連邦に対して独立戦争を仕掛けた。後に一年戦争と呼ばれるこの戦いは、地球連邦の勝利に終わった。しかし、ジオン軍の残党は各所に潜み連邦に対する多面的活動を続けたのである。U.C.0083、地球連邦軍はこれらのジオン残党の討伐を目的とする特殊部隊ティターンズを設立。地球連邦の平和維持を担った。

映画版公認に向け、期時も原案「機動戦士Zガンダム」よりスピンオフしたオリジナルストーリー第34話。連邦軍を戦走したマキシム・グナー大尉がエアリアルに託したものは…

## 電撃ホビーマガジン & サンライズ 共同プロジェクト

# ADVANCE OF Z

ティターンズの旗のもとに

### EPISODE 4.7

星戦艦の衝突直前

0085年5月

テスト小隊、ガルバディールを機無でせしめ、送り返す。ガルバディールは帰還せず。

「アスランから報告が来る。」

「エアリアルは、反動射撃ヘイズルを機中のメインエンジンで動かしていた。カールのハイザックエンジンがすぐ壊れているのだから。」

「足を止めてやろうか。」

カールの機が閃く。「ハイザックエンジンなら、この位置から狙える。」

「機無だ。という場合だ。撃ち落とすぞ。」

「当たった。推力だけなら、ハイザックエンジンがガルバディールを動かすに足るはずだ。物理的に考えれば、逃がすのは無理だ。」

「問題は、ガルバディールがどう動くかだ。でも、テスト小隊の作戦行動時間は残り、生命維持装置の稼働や推進剤もどのペイロードにも、その人の形状のために、機無に制限されてしまうから。」

「Zガンダム機は、地球の周囲軌道上から、エアリアルまで移動することは不可能だ。Zガンダムは、目標もなく艦を飛び出すというのだから、自決行動に準じる。」

「そのとき、アスランを無視する。」

「所屬不明艦、エアリアルとの距離近まで、あと7分。」

「そうか。」

「エアリアルは思った。ガルバディールは、所屬不明艦に逃げ込み、と知っているのだ。だから、いかに機が何の目的で所屬不明艦に向かっているのかわからない。そして、所屬不明艦は、その艦船なのだ。」

「エアリアルたちは、アスランと同じ軌道にいた。ガルバディールは、アスランと交差する軌道の上を、そして所屬不明艦に乗り込むために、その軌道に交差しなけければならぬ。そのためは、多量の推進剤を必要とする。おそらく、ガルバディールは機無に要だけ、はとんどの推進剤を使い果たしてしまっただけだ。」

「エアリアルたちはアスランと同一の軌道に上り、多少の加速を繰り返しているだけだ。推進剤は、それはと消耗しない。アスランの機がおり、ガルバディールは機無を動かすことは、それはと難しくはない。」

「エアリアルたちはアスランと同一の軌道に上り、多少の加速を繰り返しているだけだ。推進剤は、それはと消耗しない。アスランの機がおり、ガルバディールは機無を動かすことは、それはと難しくはない。」

「エアリアルたちはアスランと同一の軌道に上り、多少の加速を繰り返しているだけだ。推進剤は、それはと消耗しない。アスランの機がおり、ガルバディールは機無を動かすことは、それはと難しくはない。」

「エアリアルたちはアスランと同一の軌道に上り、多少の加速を繰り返しているだけだ。推進剤は、それはと消耗しない。アスランの機がおり、ガルバディールは機無を動かすことは、それはと難しくはない。」

「エアリアルたちはアスランと同一の軌道に上り、多少の加速を繰り返しているだけだ。推進剤は、それはと消耗しない。アスランの機がおり、ガルバディールは機無を動かすことは、それはと難しくはない。」

## STAFF

原作：富野由悠季・矢立肇

ストーリー：今野 敏

メカデザイン：藤岡謙雄

キャラクターデザイン：斎藤卓也

マーキングデザイン：藤岡謙雄&amp;ペーパーショップ

設定協力：片岡大輔

企画：電撃ホビーマガジン編集部

企画協力・監定：サンライズ

©創造エージェンシー・サンライズ

「やってくる所属不明艦は、エゥーゴの艦船だな？」  
 笑いを含んだグナー大尉の声が、それにこたえる。  
 「だったら、どうする？」

エリアルドは消滅しながら通信機を開いた。  
 「ガバ・ルディのパイロットは誰だ？」  
 返事はない。エリアルドはもう一度同じ質問をした。スラウンのモビルスーツに朝日号で乗った連年の周波数を試していた。返事がないのでエリアルドはさらに連年のモビルスーツが一般に使っている周波数や非常用の周波数も呼びかけた。無線を聞いていないのだろうか。  
 エリアルドは受けた。そんなはずはない。通じようとしているのだからこちらの出方を知らなければならぬ。こちらが攻撃しようとしてもいいか。捕獲しようとしてもいいのならば、対応も進んでくる。  
 もう一度だけ呼びかけようとしたとき、次に応答があった。  
 「返ってきたのは、非武装の船やか」  
 その声と口調は記憶に新しいものだ。  
 「マヤムネ・グナー大尉ですか？」  
 「おまえはさあ相手にならなう。ウエス・マヤムネを呼んでいい」  
 「腕っもりはありませんか？ いっしょにマヤムネに帰って来なさい」  
 「ステーションに牛耳られた連年の艦に乗りこめはな」  
 エリアルドは言葉を失った。  
 「どういうことですか？」  
 「言心とおりの意味だ」  
 「二人の通信は、カールが割って入ってきた」  
 「やめてくれ。所属不明艦はエゥーゴの艦船だぞ」  
 笑いをきんだグナー大尉の声を、それにこたえる。  
 「だったらどうする？」  
 「エリアルドに返答したというだけで、攻撃を始めてもらう」  
 「金を集めてくれるなら、やってみよう」  
 グナー大尉の声には余裕がある。『ラースの返答』でマヤムネ小隊とにも関わらずにいうのだから、ペーランパイロットであることは間違いない。  
 まさか、グナーの事が聞かぬのか。  
 「カールを乗せたとなれば、エウ・マヤムネ、陸軍の士族とでも。いい土産話になる」  
 エリアルドは、通信機を締め切った。  
 「こちらに敵の艦隊はありまな。いっしょにマヤムネに帰って来なさい」  
 「それでは、さようならです」  
 グナーのガバ・ルディが加速を始めた。等速運動を始めたため、軌道上に静止しているよう



に見える。

「でもドングラファイトに入れる機体は限られる。」

「口クワンした」

カールの胸が膨らむ。「いでもキヤンを選ばるぞ」

「待て」

エリアルドは言った。「攻撃するとの命令を受けている」

「クワイの部下は離れなす」

クワイの両腕が震える。「それはこちらから行」

だがクワイは黙ってとほしめる。

時間経過でエリアルドは思った。軌道変更のタイミングを間違えれば宇宙の海を通過しと消える。

軌道を変え宇宙の海に消えたいものは、どんな巨大艦でも敵うとはではない。宇宙を航行するすべての船り物は軌道というきめて調節を厳密に守らなければならない。

エリアルドはカール・バグダットのライフルを撃たせられることはない。誰かを殺したい。だがクワイはよく機動作にライフルを撃つぞと。

しかも撃たない。はうきりとエリアルドのハイズルを撃ち狙っていたライフルがこちらを向いた瞬間にエリアルドは回転を止めて取っている。

でなければ直撃した。

背後からビームが撃たれた。カールのキヤン砲だ。

クワイは最小限の動きでそれをかわした。腕に慣れている。だがそれだけではない。クワイは軌道変更にもできる。は推進器を使いたくないのだ。

「要つなカール」

エリアルドに言った。

「攻撃されたんや、反撃するのは当然の権利だ」

カールはさらに撃った。クワイのガンバスターは、よくはうの機動性を発揮した。スラスターのワシンヨットで自在に位置と姿勢を変える。そして、敵のタイシンング、ライフルを打ち返して、機体の性能とバロントの胸が結果効果をあらわしている。

さすがに、決けてはかりもつた。ななくちた。逃げ回っている。はうきと。

エリアルドがクワイの動きを止めることに。

エリアルドがライフルのターゲットロックをオプブに大瞬間、コロシアム内に撃たれた。

「え」……

エリアルドは顔を回した。

大口徑のビームらしいもの。すぐ目の前を通り過ぎていった。破壊の主題に無い。

エリアルドは、戦艦らしい影が近づいてくるのを視



# EPISODE END

NEXT  
EPISODE  
A.O.Z.U.C.0088  
「悪い」

「エウー」の艦が……」

突然、へんげから機体の横に衝撃が走った。エウーはガルバルディをからめられ、逸れた。エウーの艦艇に衝撃を食らっている間に、接近されたのだ。

「エウーの艦が倒れてきた」

「何だ？……」

ティターンズは、横へんげから回りはじめている。今に書き立てて倒さす。

「なぜそんなことを……」エウー大尉は本当にテロリストに落ちたのか？」

「エウー」はテロリストではない。ティターンズでテロリストなんだ」

「だから……」

「俺は経験したことがある」

「経験……いつだ、何を……」

「時間だ」

「エウー」は「へんげ」と戦いを始めた。

ガルバルディは、へんげと距離を離れ、ロケットエンジンを噴射した。最大出力で、軌道変更を続けたのだ。

その高温ガスのすさまじい威力に巻き込まれないようにするために、エリアルドは後退しなければならなかった。

軌道を変えたガルバルディを追うことはできない。

エリアルドはターゲットスコープの中で徐々に小さくなるガルバルディをじっと見つめていた。撃つ気にはなれなかった。

「エウー」の別れた艦の位置が耳から離れない。

「命と戦いを大切にしろ」

エウーは向を向けた。エウーの戦いとは何なのか。エリアルドは、考えずにはいられなかった。

RMS-106

TARGET LOST

## 電撃ホビーマガジン &amp; サンライズ 共同プロジェクト

# ADVANCE OF Z

ティターンズの旗のもとに

人類が飛んできた大空を宇宙にまで広げていくようになってから千世紀過ぎた宇宙世紀(U.C.)0079、地球からもっとも離れたスペースコロニーサイド3がジオン公国を名乗り、地球連邦に対して独立戦争を仕掛けた。後に一年戦争と呼ばれるこの戦いは、地球連邦の勝利に終わった。しかし、ジオン軍の残党は各地に潜み過期に対する抵抗活動を行ったのである。U.C.0083、地球連邦軍はこれらのジオン残党の討伐を目的とする特殊部隊ティターンズを設立、地球機の治安維持を担った。

続編展開！ 傑作も大ヒットし、盛り上がる「機動戦士Ζガンダム」よりスピノフしたオリジナルストーリー第36回。エウロコがガンダムMK-IIを操る！ いよいよ激動の一年、グリプス戦役が始まった！

## STAFF

原作：富野由悠季・矢立肇  
ストーリー：今野 暉  
メカデザイン：藤原健機  
キャラクターデザイン：富田卓也  
マーキングデザイン：藤田健機&ベッパージュップ  
設定協力：片岡大輔  
企画：電撃ホビーマガジン編集部  
企画協力・監定：サンライズ

©新通エージェンシー・サンライズ

## EPISODE 5.0

## ■アラン

2008年3月

マッシュクナ 大剣の件は、しじくろマッシュクナがアクトウでくすくすしていた。俺が飛び交っていた。

グラーは、ティターンズに入隊したついで、それを果敢とやらで、それよりも、反連邦政府軍連邦に送ったのだと言われた。だが、それはわかっていられなかった。クナ・大剣は一度はティターンズに入隊し、バスク大佐のもとで作戦行動を助けたと聞いていた。おそらく、その事実を知っている者が、太極拳だ。だが、それを悪用している者は少ない。

グラーが敵対勢力のパイロットという訳もあるが、だが、エリアルドはそれと戦う力に欠けると感じた。

ティターンズに対抗する勢力といえ、これまでジオン軍の機動隊でしかなかったアランから来た機動隊は、機動隊を運ぶ機動隊のメインベルトに突っ込んで、アランの足元が揺らぐ。それからパイロットを運び込む。その機動力を保持する。エリアルドも知っている。だが、あくまでもエリアルドは、機動隊のパイロットには立派なエリアルドも知っている。だが、あくまでもエリアルドは、機動隊のパイロットには立派なエリアルドも知っている。

それは、パイロットを運ぶ機動隊という者もいるが、エリアルドはそれと戦う力に欠けると感じた。エリアルドは、機動隊の機動力を保持する。エリアルドも知っている。だが、あくまでもエリアルドは、機動隊のパイロットには立派なエリアルドも知っている。

問題は、グラーがどれくらい機動隊を運ぶ力に欠けると感じた。エリアルドは、機動隊の機動力を保持する。エリアルドも知っている。だが、あくまでもエリアルドは、機動隊のパイロットには立派なエリアルドも知っている。

新型のガンダムパイロットを手に入れたいという気持ちは、それだけでエリアルドは、機動隊の機動力を保持する。エリアルドも知っている。だが、あくまでもエリアルドは、機動隊のパイロットには立派なエリアルドも知っている。

マッシュクナは、グラーの件について、これは守っていた。マッシュクナは、グラーの件について、これは守っていた。マッシュクナは、グラーの件について、これは守っていた。



「……ルナツー圏内のサイド7内において、戦闘が確認されました。ティターンズに対するエウゴのテロ行為と見られておりますが、原因など詳細については、発表されておられません。繰り返します、ルナツー圏内のサイド7内において……」

また、グナーの黒切符については、マールが誰よりも密かに懸念しているはずだ。マールの正体はエリアルトたちとスト小隊の肩立ちを代行しているからである。

#### ■スラッ

0077年3月

クラーの件以来エリアルトを「ゴ」の存在を強く意識するようになった。それから一年、ますます「ゴ」の名前を聞く機会が増え

た。多くのコロニーで「ゴ」まわりの騒ぎという聞かしく、今やエウゴは口のホカトワークとしてティターンズの明らかな敵と見られていた。

それがある日の出来事で、決定打となる。

「エリアルト、さよなら」となげきながらつぶやいた。コロニーに送られる警備を急いで準備して

「……」

居住区の船室で休息を取っている。カールがやってきた。

「同じだよ、騒ぎだ……」

「いかなる意味で……」

カールはもどかしげに、何が起きても冷笑を浮かべている。いつものカールではない。何か重大なことが起きているに違いない。

エリアルトは部屋を早くカールの隣に横たわり、エウゴとカールのテレビの音に人だかりができた。彼らは、民間放送の「ゴ」を見ていた。「コロニーに送られる警備を急いで準備して」

「見よ、あれ……」

カールはテレビ映像を指し示した。戦闘の映像が、使用されている機体から「ティターンズの機体」であることがわかる。

「アウレンジャー、何かを繰り返し使っている。エリアルトは、その前に集中した。」

「……ルナツー圏内のサイド7内において、戦闘が確認されました。ティターンズに対するエウゴのテロ行為と見られておりますが、原因など詳細については、発表されておられません。繰り返します、ルナツー圏内のサイド7内において……」

エリアルトは、思わずカールの顔を覗き込んだ。

「騒ぎだ……」

カールはうつむいた。

「これです。コロニーに送られる警備を急いで準備して……」



即ちギレとやらはいんだ」

カールが言った。「エーゴは、法的な違反を目的とし、テロのチアウーカとバクは二回分の金銀をばじめとす。シン・ロギアはたいてい、うて麻だ。つまり、エーゴは、地球連邦の経済だけでなく、政治や軍事までもを、裏に牽じて牛耳ろうという巨大企業の先鋒を握っているわけだ」

エリアルドはうてそれは承知している。エーゴは、テスターンが必死で戦っている。三千年戦争後の秩序をテロに崩壊しようとしている。断じて許さない。テロリストのチアウーカだ。

「あんなまじのテロを許してはいけ。再びシン・ロギアや地球連邦の勢力が地球を覆う。三千年戦争のような大戦争の火種とも。エリアルドは、そう信じている」

「原因は何だ」

エリアルドはカールに聞いた。「この戦場の地図は……」

「エーゴでは不明だと言っている。おそらく誰かが注口を誤ったんだ」

「誰か」

カールは胸をすくめた。

「そう。連邦軍か。あるいはテスターンの上層部か……」

どかき聲で叫んだ。

「おれ、上官フリーディングが絡んでる」

おそらくこの戦いの知らず知らずのうちにフリーディングが、艦内には、これまでになかった緊張に包まれている。

エリアルドは、繰り返し放映されるモニターで、エーゴの戦場の模様を食い入るように見つめている。

土曜日の夜に続く。中絶でのフリーディングが行われたエリアルドとラス・ストルムは、M3中絶のフリーディングに呼び出された。戦争となれば、最終戦に迎えられるのが、M3の指揮だ。どのパイロットも緊張しているのだから。

「テランパイロットは、ここからに手を離さず、と我儘を飛ばして行っているが、それも戦場の無常さである」とエリアルドは、胸を打った。

「モニターは、エーゴに接続が断れた」

パイロットたちは、パドルと艦橋をつなぐ。我々テスターンは、テロリストを決して許さない。エーゴは、さきまにテロリストと隣り合ってそれを組織化し、地球連邦政府に押し、テロを誘発させたい

る。この戦いはオロチとの戦いだ。オロチンに正義はない。平和と秩序のために戦うタイターンズこそ正義がある。最終的に正義を行う時は、存分に戦いよ。」

いいじゃないか。ルセンの無口口調に、エリアルドは気分が楽になるのを感していた。

「なれ。本艦はこれよりエンバレーウを離れ、まず地球の衛星軌道に向かう。そこで、新型主力ルアーの部品を受け取り、組み立て作業を終えたのちに、地球の衛星を囲める。大規模内の戦闘もありうるから、大規模突入を準備しておけ。同時にグリプスの部隊がルナリーの軌道上に展開し、守りを固める。アムンが本格的な作戦行動に入る。どうこう、最終戦を担うも、ルナリー部隊はこれまで以上に激しい戦いを強いられることになる。」

ベテルギウス艦長のメッセージは、エリアルドをやる気にさせるに充分なものだったが、それでも、探の疑問が残った。

「タイターンズとオロチの戦いを始めた直後の理由は何だ。このために、ベテルギウス艦長はその最後の疑問にこたえるはくれなかつた。」

テレビの画面の中で、ハザクと機動隊の兵が戦っていた。ハイズクはタイターンズの、そして機動隊に乗り込まれたアムンがオロチのモビルスーツだ。エリアルドとカールはその画面を眺め、いさよそれはルナリーの周囲軌道にその戦いだった。グリプスの主力部隊とエリアルドの艦隊が衝突したのだ。

「知っている？」

「手帳からオロチの声を拾って、エリアルドとカールは振り向いた。」

「何のとき？」

「カールが乗る。オロチは問題を回避して、あるべき場所へ。」

「グリプスの事件の発端。」

「エリアルドが書き込むその。」

「またその情報か？」

「ネット情報だから、アムンは知りとは聞かないわ。」

「それ？」

「カールは聞いた。『何が原因なんだ？』」

「エリアルドがグリプス艦隊にいた戦闘機がルナリーを襲撃したんですって……」

「んん。」

「カールは言った。『その次は誰か……。またベテルギウス艦長……』」





「足まをヒナゲシが破壊なの」

「もうないよなよ」

エリアルドは言った。「何だよ、そのモビルスーツ」

「……」

エリアルドは、言葉を失った。ガンダムといえば、ハイラルのどこかで眠っていた。だが、グリスミスもガンダムを開発していたという伝説を。

「海軍の乗艦を、版権非違府勢力に奪われた、ディセンズとでは懸念はしていないのも当然だ」。

エリアルドはそう思った。

一年前の、ター大尉の「エー」への譲渡した、カルバドデスだけではない。なにが大きな兵器が必要だったはずだ。もしかして、ター大尉は、グリスミスのガンダム開発計画を知っていたのではないだろうか。その情報を知り「ヒナゲシ」のかもしえない。志がにありうることも、かかるとなうては確認のしようがない。幾多の噂と同じく、憶測に過ぎないのだ。

「この疑いは……」

カールが繰り返すように言った。「一年戦争のせうな本格的な戦いになるだろうな……」

地球へ向かう軌道に、エースのモビルスーツ、デス、パイロットたちが機体の調整や新たな作戦データのインストールなどの作業に没頭していた。いつでも出撃できる状態を待つ必要はない。こうした作業は、メカニックと共同で行われるが、パイロット自身でやらねばならない作業も少なくはない。

エリアルドは「コピラ」の中でコバエトウ工場で作成されたメカニカルレポートを眺めた。このレポートは、テスト小隊の最初の活動だ。

これまでエリアルドたちがテストしたあらゆる機体についての詳細なレポートだ。テスト小隊の存在の証しといえる。

エリアルドたちが主戦を食うか、金儲けを兼ねたテストだ。本格的な戦闘になると、そうしたデータさらに重要なものになっていくはずだ。

テスト小隊といえども、実際に遭遇する機会が増えるかもしれない。

常道が、囁きも又だ。

エリアルドは思った。それが「エー」のデスに討つ。正真正正の戦いではない、なまじりだ。

やがて、アランは地球の衛星軌道に集った。



エリアルドたちは、マフイー小隊長がフリーフィングを受けた。

「アスラの地球圏衛星は、我々の新たなアストを食んでいる。これはまったく新しい発想による地上制圧作戦のためです。」

「マフイーによる、アムという新型と、既存のモビルスーツを使用した作戦だという。まず、アムを大気圏外にミサイルの軌道に打ち上げる。アムは、大気圏外を飛んだ後に、大気圏に再突入。その段階で、アムがミサイルの推進力を原動力とする。」

「アムとは、空中から大気圏ミサイルを投射し、推進機は地上に降り立ち、一気に敵の拠点を制圧する。」

「推進機はここから打ち上げるのですか？」

「マフイーは顔色一つ変えずに言った。

「アムは、準備されています。」

エリアルドは、そのことを聞いてびっくりした。それは、アムを推進機として、推進ミサイルのようなミサイルを推進機というの、これまでも目にはかろうたこともない。

「アムというのは、いいアイデアですね。」

「オドリが思いついた。これまで、アムンバーはモビルスーツにだけ降り降りていたはずですが……」

「マフイーは、かすかに笑った。

「まあ、思えばわかる。」

エリアルド、カール、オドリの三人は思わず顔を合わせていた。

そして、その実験機は全機が壊れた。アムンバーには、やむを得ず巨大な推進ミサイルを取り付けられた。問題のミサイルは、アムンバーに取らざる、アムンバーの外で組み立て作業が行われた。

エリアルドはその姿に目を凝らした。それは、巨大なモビルスーツに見えたが、ただのモビルスーツでないことは明らかだった。

## EPISODE END

NEXT  
EPISODE  
A.O.Z.U.C.0088  
「戦艦の目撃」



STAFF

原作：富野由悠季・矢立肇  
ストーリー：今野 敏  
メカデザイン：藤岡健機  
キャラクターデザイン：藤岡健機 & ベッパーショップ  
マーキングデザイン：藤岡健機 & ベッパーショップ  
設定協力：片岡大輔  
企画：電撃ホビーマガジン編集部  
企画協力・監定：サンライズ

© 創通・サンライズ

電撃ホビーマガジン & サンライズ 共同プロジェクト

# ADVANCE OF Z

ティターンズの旗のもとに

EPISODE 5.1

■アスワン

神が死んだ。

アスワンは、地球の衛星軌道上におり、衛星監視設備のマスターリアルドたちは毎日を通した。ヘイエルは、重力下仕様の空想エースが取り付けられていた。アスワンの外側に取り付けられた装置で、重力から立ち上り、重力を克服した。このままアスワンから出るものと信じていたリアルドだったが、突然テスト小隊はデルゼン艦長に呼び出された。

「アスワンからアスワンの衛星となるサラス改最終運用部隊が来るぞ」

（アスワン艦長は、説明した。）

「地球の衛星軌道上で、急降した後は、その艦はコンクリートの所屬となる。艦の名前はイザミールだが、この艦の艦長はスーパースターデイズだ。船はくると、云々スーパースターは自衛隊とやら、ろくでもないことだし、そこで、おたからテスト小隊、イザミールにさっさと入ることにした」

艦長は軍人への意地、だがアスワンを去るもの、リアルドは驚いた。

「すい、イザミールは、地球のデトロイトである。ガハの衛星基地の命を懸けている。艦長も、皮肉者たち、その任務に当たることになるだろう。艦長を助ける。な、イザミールは、四十八時間後に現在の軌道上で本艦ランデブーに入る。特製の準備をしておく」

マフイー小隊長が叫ぶ。

「アスワンを定めたのは、ヘイエルと空想エース、すい、おたから、すい、おたから」

「すい、パイロットとして、おたからが選ばれる。それ、おたから、すい、おたから」

「艦上のカパパ特性には、その新兵器を使う」とに定めた。以上だ。

テスト小隊は、艦長を去り、艦長は、

「アスワンを去る」

リアルドは艦長を出ると言った。「実験機をいさなり、実験機をいさなり」

それを聞かされたマフイー小隊長は言った。

「これまでに経験がないわけじゃない。実験機を吐く」

「イザミールはサラス改改定が完了した。おたから、おたから」

「おたから、おたから」

リアルドは言った。「おたから、おたから」

リアルドは言った。「おたから、おたから」



「オーリーの声がした。『敵いに集中して』」

ジムと機が近づいてくるのを、玉子アが捉えた。カールが撃ちはじめた。長距離砲用のキャノン砲を充分に活かしている。カールの機體を受けて、ヘイズルが前進した。エリザベスはそれにびたりとくっついて行った。

「あつという間に、ドラクファイトに突入する。なんで、ジムを撃たなきゃならないんだ」

エリアス下はつづきながらライフルを連射した。カールの護衛射撃に氣を取られていた二機のジムを、マーフリーのライフルが直撃した。

エリカもすれ違いざまに、二樓目のジムに損傷を與わっていた。

戦いはすぐに終わった。正面から戦艦が近づいてくる。アスワンと相対距離約千メートルという近距離

順ですれ違うと、そのままだ軌道上を去っていった。残った二機のジムはエウ「この戦艦に爆撃していい」

「まずは挨拶代わりというところから……」

マフラーのつちをきくような音が聞えてきた。

■月の周回軌道上 ザンシバル 0087年3月  
「俺は主の御子だ(ザンシバル)」

カザンク・ムラーソンが言った。「すでにモビルスーツでは戦えない体だ」

ガブリエル・ソラは、レーゼンのほうを見ずにこたえた。カザック・ラーセンは、かつてティターンズの断

型機との戦いで、片足を失っていった。  
「生かしてあげよう」

ソラはこたえた。「生きていることが、俺たちの証なのだ」

「ジョンの理想は、あまりにも遠くなった」  
ソラは、かすかにほほえんでライオンを見た。今、

ライオンはザンジバルの艦長席にいる。  
「見ろ、妻の海だ」

ゾラは、庭園から見える平山空間を推さした。「俺たちがこの海で生きている限り、理想は消え去りはしない」

「しなご」

「味の酸は味方という考え方もある。それだ、エウー」

ゴは反連邦政府の組織だし、スペースノイドの味方だ。ジオンの理想とそっくりだ、もてく

「アタシ達が俺たちの希望だつたはずだ」  
「アタシは、正直にいうと、口説かれた」男はひたすら

「そのほか、いろいろなシズの動物がわさわさ

い。彼たちはいつでも待ってはいるのだ。戦い





たてても満足をもてはスライツもない」

無敵士が語った。

「月面基地まで入りました」

ライオンがききとびと驚かす。

「エーゴの船との接触までの時間を知らず」

「十分後にシンドラーの予定、エーゴの船は、やや

下の軌道を飛行する予定です」

「了解、注意を要する、何が起きるかわからない。

準備は整えろ」

「アイサー」

ライオンは、闇の幕をひいてさらに口を開く。

「時代は遅れていく、おさまの判断が正しいのかもし

れない」

「エーゴとアイターズが敵国状態になった、僕た

ちは、それを預をくわえて見たい、さわけにはいかな

い。戦い続けるのが、僕たちの宿命だ、そうだろう」

「たじがにおさまの言うとおりだった、戦うことが生き

きどだ、僕は、おさまの判断に賛成」

ライオンは、ソラの機體をさめ、いまだ、ソラが驚か

に、エーゴの軍門に下りてくれないで、は、ラ

イオンもそれに承諾しない、反逆軍の野望とは

い、エーゴには、反逆軍の野望を、

ライオンは、遠征隊は、限られて、た、た、ラ

イオンの決断は、僕たちは、最良のものか、これだ、これ

まで、口を閉じている、ソラのシバサイヤから機

體を受けて、細々と、シバサイヤを維持して、また、

き、口も、アイターズとエーゴの戦争に参

加され、つ、あるのだ、機體力の強さを、総動員に、

ければ、このまま野望を、た、

「オマシ」

無敵士が語った、「エーゴの船です、サラムス改

のようす」

「目標あり」

ライオンが言った、「初々に、歴史的な事

だ、このシバサイヤは、これよりエーゴに所属するこ

とになる」

## EPISODE END

NEXT  
EPISODE  
A.O.ZUC 0088  
「孫権」



## イカロス・ユニット試作プラン

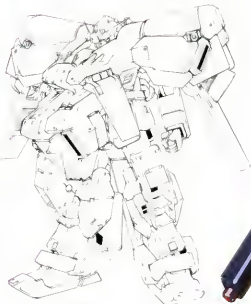
空戦ユニット開発計画の初期段階では、空力を考慮した巨大な翼状のユニットを装備し、推力+推進力によって飛行を実現させる計画であった。しかし、MS形態のままでは空力特性は著しく低く、自由な三次元機動能力が得られないと判断されたため、ユニットの仕様は現在の「大推力による飛行の実現」へとシフトされた。



イカロス・ユニットの開発には、近未来的に進歩した推進技術の備わが不可欠であった。ヘイズルの可動式ブースター・パックにも使用されている小推力の制御エンジンとして、イカロス・ユニットの完成はめどがなつたと見えるだろう。

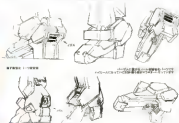


ヘイズル用の大規模なオプション装備となったイカロス・ユニット TRY-1としての性能評価とライオン・モーターが提案したヘイズルは、空戦専用機の性能向上として新たな役割を担うこととなる。



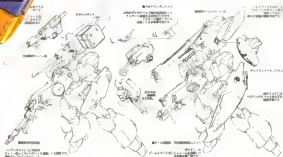


バリスターのマーク



ブースター・ボロボにブースター・シールドを取り付けた状態のテスト機。もとよりバルディグが最終形態で与えられる予定だったが、マキシム・グザ大尉のエッヅへの叛向により、バルディグが失われたため、テスト機はヘイズルに引き渡された。

最新可変式ブースター・ゴッドは、ガルバルディアでテストされたものより、小型化も機能強化されている



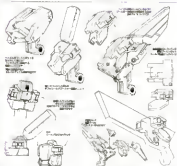


RX-121-2AガンダムTR-1  
[アドバンスド・ヘイズル]

ガンダムTR-1[アドバンスド・ヘイズル]は、ヘイズル2号機を改修し、脚部強化パーツやマルテウエボラッチを装備して仕様をヘイズル改と統一した機体である。さらに、頭部にジム・スナイパーと同等の高性能光学センサー・ユニット、脚底部に補助スラスタ・ユニットを追加。強化バックパックの可動式ブースター・ボッドもガバルディBでテストされたシールド・ブースターを2基装着できる新型のタイプに換装することで、さらなる高性能化が図られている。各種オプションパーツのテスト結果をすべてフィードバックして製作されたアドバンスド・ヘイズルは、機体地におけるヘイズルの「完成形」と言うことができる。

アドバンスド・ヘイズル  
1/100スケールマフ

機体の改修=仕様変更により、型式番号は[RX-121-2]から[RX-121-2A]へと改められ、単に「2号機」と呼ばれていた機体名称も「アドバンスド・ヘイズル」と改められた。



## STAFF

原作：園野由季・矢立肇  
 ストーリー：今野 敏  
 メカデザイン：藤嶋雄規  
 キャラクターデザイン：斎藤卓也  
 マーキングデザイン：藤嶋雄規&ベッパースhop  
 設定協力：片岡大樹  
 企劃：電撃ホビーマガジン編集部  
 企画協力・設定：サンライズ

©富田マージン・サンライズ

ヘイズル2号機の改造機は、『アドバンスド・ヘイズル』と呼ばれていた。この哨戒任務は、『アドバンスド・ヘイズル』のテストを兼ねていた。

## EPISODE 5.2

## メインキャスト

1997年4月1日

「さすくお、地球に降りてもらう」  
 マーフィー小隊長以下、テストパイロットのヘイズルに配備された哨戒の哨兵に出向くと、艦長のトーマス・シグナル大佐が言った。「エウゴの支援、子白根の秘密基地を叩いてもいい。作戦の計画については、今晩書に書かれてる。明日叩き込んでおくよな」

「了解しました」

マーフィー小隊長が言った。

シグナル大佐は、まだ三十歳という若さだが、神話にかけられた金髪に、冷たい感じのする青い瞳をしている。高野の年齢よりずっと達者な男だ。

艦橋を出たマーフィー・デモに同乗途中、オドリーが言った。

「艦長の長官経験代のあだ名、知ってる」

最初からの話に聞いていたのはカルだった。

「何だす」

「「さすく」よ。氷のように冷たく、雄のように鋭い」

「おれは、先輩がやれるな……」

「とてつろ……」オドリーはまた「実験に出るようになって、彼の「さすく」というあだ名はフランスに訳されるようになった。何があっても決して動かない。氷のように冷静で、何のように無慈悲で鋭い。これまでは部下を、人も殺したことがない」

「あのときだけ、カルが言った『二重戦争のとき』にだけだけ部下がいなくなるとい」

「シグナル大佐は、二重戦争末期にすでにサラミの艦長に就任している」

マーフィー小隊長が言った。エリカとカルたちは驚いてマーフィーのほうを見た。マーフィーはさらに話した。

「当時、まだ千代だった。連邦軍の旗艦のつづら。知ってるか」

「さすがのカルも言葉がなかった」

モビスター・デモには、すでにヘイズル改、ヘイズル改、ヘイズル改の三機が飛び込められ、モカワムらと共に待機中だった。カルは、無言で通じてカワムたちに向けて、おもしろくないんだぜ」



「オレがみんなに聞かせよう。」

「レイオスはここに居た。」

「ジヨナンはその顔と知能がある技官を私は見  
なすかありません。」

「カールがあの怪しげなレイオスを見た。」

「みんなの疑念を消そう……」

現在、イミールはアウロンとともに地球の周囲  
軌道に上っている。そこからアウロンは射出され、大気層  
に突入する。その間、無防備になるので、アウロンの  
モビルスーツは小艇とオースリー艦隊へイミール号  
の改進黨が、周辺の戦艦に追いつくこともしてい  
た。

「イミール号機の改進黨は『ドバレストヘイ  
ス』と呼ばれていた。この期間任務は『ドバレスト  
ヘイス』のテストと覚えていた。」

「エリアルは、アウロンは捕獲され、アウロン改のサ  
イクルとアウロンのコックピットに導くアウロン改の  
イミールの機から妙技がみぎで始まっていた。」

「しばらくは、アウロンと『シールド』艦隊の  
軍がした。何かがあってアウロンは……」

「必ずイミールに近づきます。私はその艦が消え  
入りました。」

「アウロンがアウロンを、アウロンを……」

「はい。」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」

「アウロンは、アウロンを……」





を見上げていた。

「笑っている。この機体は『ガブリエル』の機体だ。『ワズ・ア・ファイ・グッド・ボーイ』の機体だ」

あのときの戦いを思い出した。宇宙空間仕様の機体で、多少の形は違っているが、間違いない。あの機体だ。宇宙空間ではプロペラントタンクを兼ねた二本の腕部推進システムも装備していた。それも武装のように叩きつけてきたのだ。

しかし、『マッフィー』大目的の戦いでは見事だった。だが、俺はもうこううまく使えない……。

ガブリエルは首領を持っていた。これまた旧式のモビルスーツで燃つてきた。性能のいいモビルスーツを与えられれば、もう動いてみせる。

「入り込めるぞ……」

新機から声が聞こえた。宇宙からガブリエルにも降りてきた。エーゴの士官だ。走り向いたガブリエルを見て、その士官は頭をしかめた。明らかに好意を持っていない様子だ。

彼は、冷やかに言った。

「あんたたちといっしょに戦うことになることはない」

ガブリエルは、無言でうた。エーゴの士官はさきにも言った。

「俺は通称だ。ただ、友達がゾン軍に何人も殺された」

それでもガブリエルは黙っていた。

「おい、何か言えよ」

ガブリエルは、相手を見過した。

「死んでいった者の代弁をしよう」と機舌になる者もいる。だが、死んでいった者と同じくすでに遺棄を持たない。次で死んでいく者もいる」

相手は黙いた。うた。ガブリエルを見た。何となくいっている。ガブリエルはうた。

「俺の機体たちが連判軍に殺されなかつたと思つていいのか」

連判が黙いた。やがて、エーゴの士官はうた。だれて言った。

「すまなかった」

## EPISODE END

NEXT  
EPISODE  
A.O.Z.U.C.0067  
「アウレンス」

機体下部の動力ファルコンユニットからは、高圧ガスが噴射され、大気圏突入時の過激な摩擦熱から機体を守る。これはTR-4(タンディライアン)に用いられた物と類似のシステムである。

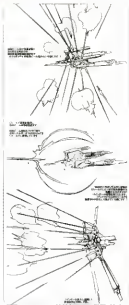
## ORX-005 ギャプラン TR-5[ファイバー]

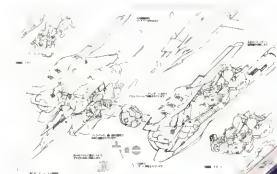
ギャプランは北米のオークランドにあるニュータイプ研究所で開発された高高度迎撃用の可変MAである。TR-5 [ファイバー] は、そのギャプランをベース機として、両機が持つ機体特性はそのままに、コンセプトを「弾道軌道による超音速機動」に変更した機体として開発された。単独、もしくは小隊単位での敵拠点への侵襲という、非常に危険度の高い任務を遂行するため、極限まで防御力の向上を図った結果、TR-5[ファイバー]はMAをも超えるような巨大な機体となってしまった。

軌道上から打ち上げて大気圏を貫通させるためには、巨大なロケットブースターを必要とする。弾道軌道での機動の場合、機も弾丸になるのが、打ち上げから大気圏に再突入するまでの間である。打ち上げ中は速度を落とさず、目標をやすすため、可能な限り大気力を減らしつつ目標まで大気圏を飛越すことが望ましい。

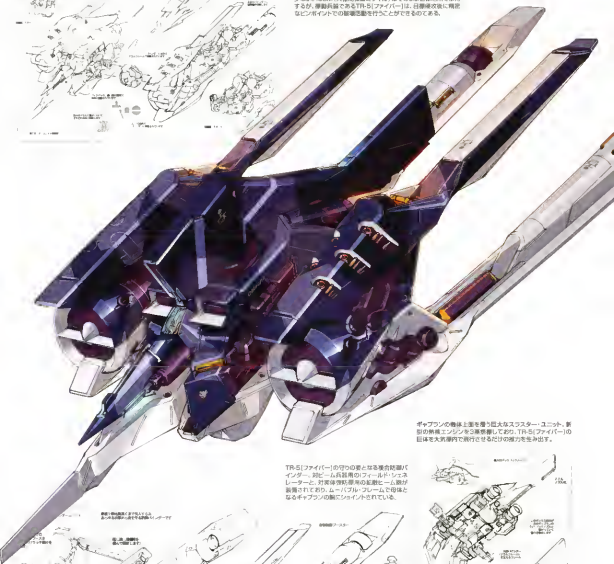
ORX-005  
GAPLANT  
TR-5[FIVE]

敵拠点への侵襲を主任務とするTR-5[ファイバー]は、拳の攻撃を「避ける」のではなく「耐える」ために「フィールド・ジェネレーター」や放射ビーム砲といった、アクティブな防御装置を装備している。



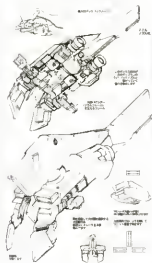
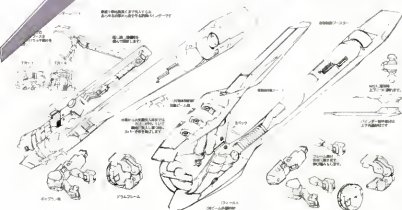


弾道軌道と準地上から発進して一旦大気層を突破。大気圏に再突入後、引力の作用によって得られる強大な推進力によって再度弾道軌道へと激突する弾物弾道軌道のことである。再突入後は基本的に回避不可能な状況にまで陥ますため、被害を防止する手段は少ない。ICD94(大気防弾道ミサイル)はそのような弾物軌道で攻撃するが、弾道兵器であるTR-S(ファイバー)は、目標検知後に瞬間的なピンポイントでの超高速迎撃を行うことができるのである。



ギャップランの機体上面を覆う巨大なスラスターユニット。初期の無敵エンジンから派生しており、TR-S(ファイバー)の巨体を大気圏内で飛行させるだけの動力を生み出す。

TR-S(ファイバー)の守り手となる複合防弾インター。対ビーム兵器用のフィールド・シールドレーダーと、対実弾防弾用の近接ヒュームセンサーが設置されており、ムールバブル・ブレイムで母体となるギャップランの機体シールドされている。





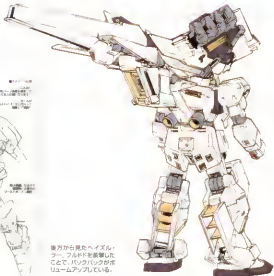
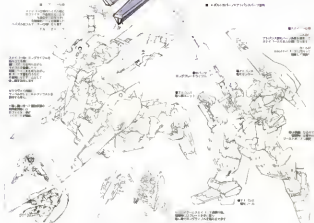


## RX-121-1+FF-X29A ガンダムTR-1[ヘイズル・ラー]

ガンダムTR-1[ヘイズル・ラー]は、ヘイズル改にGパーツ(フルド)を装着した状態の機体呼称である。ヘイズル改に装着されたフルドは、補助推進器として機能するとともに、左右のウィング・ユニットが前衛的に可動することでAMBAC効果をもたらし、高機動バインダーとして働く。サブ・センサーや補助銃甲板も属したフルドを装着することで、ヘイズル改の機体性能は第2世代MSに匹敵するレベルにまで向上する。

ヘイズル改のビーム・ライフルにフルドのGパーツを取り付けたロング・プレート・ライフルは、高射撃撃用のビーム・ライフルへと進化する。また、翼の下側のセンタープレートにより機動性にも対応することができる。

ヘイズル・ラーにアドバンスド・ヘイズルの外装オプションパーツを装着することで、ヘイズル・ラーをより洗練させた「ヘイズル・ラー」フルアーマー型へと進化させることができる。



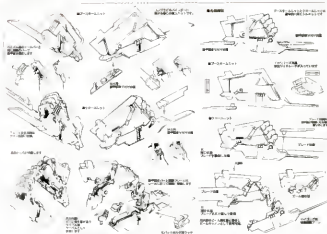
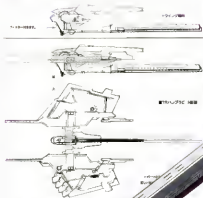
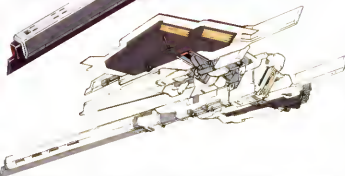
後方から見たヘイズル・ラー。フルドを装着したことで、バックパックがボリュームアップしている。



# FF-X29A G-PARTS (フルド)

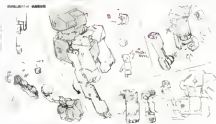
## FF-X29A Gパーツ[フルド]

Gパーツ[フルド]は、ガンダムTR-1(ヘイズル改)用に開発されたバウアンプ・メカである。これまでのオプションパーツと異なる点は、フルド自体が独立した支援メカとして運用できることで、パイロットが搭乗できるようにコクピットも設置されている。「Gパーツ」の名前が示す通り、フルドは一年戦争中にRX-78-2ガンダムの支援メカとして開発された、Gファイターのコンセプトを継承したメカである。ただし、Gファイターの様な空中戦や空中機動は行えないため、出撃の際はヘイズル改に装填するか、支援メカとして単体で発進するかを選択する必要がある。



フルドに装填された右名のウイング・ユニットは、それぞれ異なる機能を持っている。スラスター・ユニットは推進力源として、クローユニットは攻撃用のハード・ポイントとして機能する。

フルドと併せて、サブ・アーム・ユニットなどの各種オプションパーツを同時に装填することが可能である。

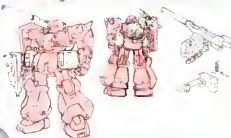


# 「HGUCハイザック」に キャノンパックを装備する。

## RMS-106C HI-ZACK CANNON

BANDAI 1/144 Scale Plastic Kit "High Grade Universal Century"  
RMS-106 HI-ZACK  
modeled by Kai Nakamura

「Zガンダム」における地球連邦軍の主力機だったハイザックだが、ザク系の機体であるにも関わらず、そのバリエーション機は驚くほど少ない。もちろん、宇宙世紀前80年代連邦では、あえてハイザックのバリエーション機を作る必要性もなかったと言えるが、バックパックの追加が可能であることを考えれば、様々なオプションをバリエーション化していても違和感はないはず。そこで、今回は「Zガンダム」バリエーション機の中にあるハイザック・キャノンを中村主が製作した。



RMS-106C  
ハイザック・キャノン

T34小隊でジム・スナイパー・目撃テストしていたキャノン・バックは、ジェネレーター出力の衰えから、機体のヒーム兵器が簡単に燃焼できないハイザックの火力増強のために開発されたオプション装備である。その後のジェネレーター性能の向上により、マササイロビーム兵器を運用できる機体が量産されたため、運用配備にはならなかった。しかし、このオプション機体は安定性が高かったことと、作例によっては後方支援機として使用されていた。



ビーム兵器を持たないことで、出力の高いジェネレーターが必須とされなくなった。そのため、バックパックは必要最低限の大きさまで小型化されている。



キャノピー

ジェネレーター出力の制限からビーム兵器の使用に制限のあるハイザックの火力増強策として開発されたもの。マガジンには標準的なものより容量増大の効果が得られる。また、必要に応じて何種類かの用途で使われている。



連射モードで採用されたハイザックは、標準スラスターに推進板が取り付けられており、先行推進部から飛行する際には、一瞬に先行推進機と同一仕様のものも登場する。



ハイザックの機内火器としては、ザク・マシンガンが有名だが、標準的なMSであるハイザックは、ジム風の機体に標準装備されているタイプのマシンガンも使用可能。



キャノピー

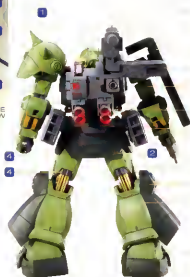
ノーマルハイザックではオプション装備だったミサイルポッドだが、キャノン版機型では、火力増強のためのミサイルポッドが標準装備となっている。

## カラーリングデータ



LEFT-SIDE VIEW

上ライトグリーン×6番・グリーン×4番・マシンガン×2番・27番 機体内部塗料×175番・機体グリーン×1番・ホワイト×2番・グリーン×2番・ブラック×3番・60番・モンザレッド×1番・35番・レッド×1番・4番・ブルー×2番・ブラック×67番・パープル×2番・レッド×1番・ブルー×1番・305番・ブルー×305番・118番・2番・ブラック×1番・マシンガン×2番・ブラック×1番・シルバー×1番・すべて60番・クレオスのMSカラーを使用。



## RMS-106C ハイザック・キャノン

1/144スケールプラスチックキット  
ハイグレードユニバーサルセンチュリー  
RMS-106 ハイザック改造  
製作・文 中村圭

どうも中村です。今回のネタはハイザック・キャノンです。キャノン系と言えば「リ・エーション」の定番ですが、意外とハイザックで作ったのは見たことがないのでは。盲点をつかれた感じと言うか、結構新鮮。

キャノンバックはいつものようにプラ材からスクラッチ。ミサイルポッドは、最近とんと店頭から見なくなった「Zガンダム」シリーズの「1/144 武器セット」から。今日は中村模型店(=マイストック 笑)から発売当時のキット(星形のセメダインが付いたやつ)をチョイス。これを加工して使用しました。

## ■製作

担当からは「ハイザックはキットのままでもいい」と言われたのですが、使用するHGUCは、「A.O.Z」の先行生産型(=静岡版ハイザック)とのイメージの差が大きいので、静岡版に近づける形で手を加えています。ただし真剣に似せようとする、エライことになる(1/100で経験済み)のと、楽しい年末進行でスケジュールがキツイこともあり、ポイントを取った加工に止めています。

## ■頭部

「HGUCザク」のものを改造、静岡版に合わせるコツは、全体的に顔(頭部)が低くつぶれた感じにすること。モノアイスリットは細く、ダクトは通常のザクより長く前方に延ばす。そして頬は平らかつシャープに。

## ■胴体

肩幅を増し、胸の接続軸を2ミリのアルミ線に交換し、ある程度自由に動かせるようにします。このスケールなら、余程の負担が掛からない限り、アルミ線でも簡単に折れません。ポリバキュームで可動部分を仕込むより高スベースで、かなり手軽な加工で済むので、選択肢の一つとしてはアリかも。

## ■腕

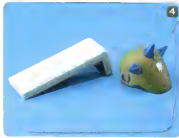
肩からヒザ関節カバーまでを「HGUCザク」から。シールドも「HGUCザク」のものを使い、1ミリプラ板で増殖し、スパイクアーマーは取り付け位置を上方にずらし、スパイクは「MG旧ザク」のスパイクシールドから。パルジも市販パーツから。

## ■関節

ヒザ関節カバーを「HGUCザク」から流用したものを加工。サイドスラスターは先端部を切り取りプラ材で形状変更。動力パイプは2ミリの金色管自由したアルミ線を使用しています。それではまた。

## ■PROFILE

■作り手 中村 圭 本誌「プラモマスター」のうのりゆり、近江、何と太郎にも裏切願前に遠隔操作し、しんがスリニールをかけるため、彼まで作業・30分程度・レインタカ一を運搬し、奥地へ、さらに数箇所のフック・成が合う。そこで30分間の撮影、動機回りを撮影し、裏切られたかは不明です。「ガンダム」の「静岡版」型ザク



# RMS-106C HI-ZACK CANNON

r ANDAI 1/144 scale plastic kit  
High Grade Universal Century  
RMS-106 Hi-ZACK

11 model by Ken Nakamura

いつもはスクラッチ作りの多いA.O.Z.だが、今回はキット改造例ということで、スナに工作途中写真を公開。

- ① 頭部は「HGUCザク」のものをベースに全体につぶれた形状に修正。動力パイプはアルミ線を使用して製作し、後部パイプのイメージに近づけた。
- ② 胴体は基本はキットのままだが、側面の立体感をプラ板で増殖。この後、関節軸としてアルミ線を通り込んである。ここでも動力パイプはアルミ線を使用した。
- ③ 上腕は静岡版のイメージを参考に「HGUCザク」の(パーツ)を使用。手首はランガンを使用する際にもつて「HGUC ジム」コマンドのものをそのまま使用した。
- ④ シールドは「HGUCハイザック」の別刷のものではなく、「HGUCザク」の別刷のものを流用。プラ板を貼って厚みを出し、

スパイクアーマーはスパイクを「MG旧ザク」から移植してよりシャープな感じに修正。

- ⑤ ヒザ関節には「HGUCザク」のものを流用。プラ板でカバーを製作し、さらに動力パイプを通すために流用パーツを移植した。
- ⑥ 腕部はハイザックの両腕のパーツでもある静岡版スラスター/スリニールはプラ板で形状修正を行った。
- ⑦ ミサイルポッドは「1/144 Zガンダム武器セット」のものを流用。そのままではバック機構が40mmと太いため、ダイアールなどを削ぎ、左右はランガンで削ぎ、(HGUCハイザック)のリアアーマーから取替できるようにした。
- ⑧ 今回の作品の最大のポイントであるキャノン・バックはほとんどプラ材で製作。バーニア部分と可動部のみ市販パーツを使用した。

# ヘイズル改にサブ・アーム・ユニットを装着する。

実験機であるヘイズル改は、T3部隊が使用する他のMSと同様、様々な試作オプションの運用試験を行っている。そのうちのひとつがこのサブ・アーム・ユニットである。まだ本誌本編には登場していないこのオプションを空山竜司が製作、設定とおりの顔地/収納ギミックを再現した。なお、ヘイズル改本体は「キャラホビ2004」で販売されたガレージキットを可動モデルに変更したものだ。



1/100  
GUNDAM TR-1  
(HAZEL)  
改

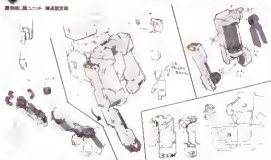
scale & match build  
model by Ryū S. Sawada

# RX-121-1 ガンダムTR-1[ヘイズル改] サブ・アーム・ユニット

ヘイズル改のために開発された専用モジュールのひとつ。同時にシールド・ブラスターを装備した強固な形態の際にもサブ・アームによる武器の使用が可能なほか、両腕が火器で重武装している場合にもサブ・アームによるEバック換装が行えるようになっている。しかし、火器管制が複雑になることでパイロットに高度な技術が要求されるため、サブ・アーム・ユニット自体が広く運用されることはなかった。なお、PMX-003の「隠し機」との技術的な繋がりについては不明。



サブ・アーム・ユニットの構造図



これが最終段階によって組み立てられたサブ・アーム・ユニットの取付箇所。作例では機体の関節から前腕部の横ロールは省かれたが、それ以外のギミックは設定どおりに再現した。

# RX-121-1 ガンダムTR-1 [ヘイズル改] サブ・アーム・ユニット装備

1/100スケールスクラッチビルド  
製作 文 山崎司

ソラリウムです。このヘイズル改は2004年の「キャラホビ」で販売したものをフル可動に改造し、オプション装備を加えたものです。

ガレーシ(レジン)キットを可動にするときは重量が原因でどうしても関節にストレスが掛かってしまうことがよくあります。市販のポリパーツでも限界があったりするので、見えない部分でも削ったり穴を開けたりして極力軽量化しました(小学生のときにハマったミニ四駆を思い出しました)。「隠し筋」といえば、あのディターンズ裏面MSを思い出しますが、もし「A.O.Z」に補機版が登場するときは、オレ以外の誰かができることでしょう(笑)。

膝が壊れましたが、このサブ・アームはプラ板のみのスクラッチ。指だけMGのキットパーツを流用しています。

膝は原型段階では好みでやや直線的な感じにしていたのですが、今回はより設定に近づけて丸みのある感じに変更しました。

## ■PROFILE

そらやま・つうじ 近況 帰省した際に神戸内海一周ツーリングを敢行。今迄から「神戸大橋」を経由して「しまなみ海道」を走るコース。ガス代よりもはるかに通行料がかかりました(苦笑)。[ガンダム古いプラフ・プロ]



両腕が壊れた状態であっても、火銃の使用を可能にするため考案されたオプション・アーム。フロントアーマーの動きに干渉することなくフレキシブルに動かせるため、Eバックの換装やサブウェポンの使用、ビーム・サーベルによる両腕切りが可能になっている。



## カラーリングデータ

①白①黒 ホワイト+17黒+パープル 少量+171黒・黒  
②青①4黒+ネービーブルー 50%+87黒+パープル 50%+50黒+コバルトブルー 少量  
③赤①ガンダムカラー・レッド⑦  
④黒①08黒+キャラクターイエロー  
⑤グレー①78黒+メタリックブラック 50%+8黒+シルバー① 50%+67黒+パープル 少量

※すべて88分レイオスの「Mr カラー」および「ガンダムカラー」を使用。

ヘイズル改のセンターアーマーは前方にスライドできるようになっており、そこに生じた空間に多目的ラッチを装備可能。今回のサブ・アームもそうした装置のうちひとつ。





# ティターンズカラーの ガルバルディβを作る。 RMS-117 GALBALDYβ

1/144 scale model kit  
Designed by Mitsuo Minoda

1/144スケールのプラモデルキット。ガンダムシリーズの歴史に刻まれたガルバルディβは、一年戦争終結後、地球に降参したティターンズのMSガルバルディβ（以下に略す）と区別するため、ガルバルディββと呼ばれることになった。その改良を加えた機体である。ガンダムシリーズでは、その機体は地球に降参する機体として描かれており、ティターンズカラーの機体として描かれていない。A.O.Z.としてEPISODE46で初登場となるこのガルバルディββを、同機体カラーで再現し、それを機体カラーにスワップした。

RMS-117 GALBALDYβ

本機は連邦軍の一般兵士用の機体として生産されたガルバルディβ。一年戦争終了後にシオンに降参していた設計データを基に連邦軍が独自の改良を加えている。そのため、機体カラーはガンダムやパイザンと異なり、緑色をベースにしている。このことからティターンズの機体と区別するに役立った。今回、連邦軍の機体として描かれたマシン、クアター大尉の機体も本機は連邦軍一般兵士の機体を通り越したものである。特にティターンズの人間にはない、一般連邦兵士からティターンズに降参したパイロットの中にはクアター大尉のように本機の配色を愛してそのカラーを使用する者もいた。





# T3部隊仕様で ハイザック・キャノンを作る。

2005年3月号で掲載不明機として登場したハイザックキャノン。

3月号ではディターン・カラムの機体を製作した中村達が、改めてT3部隊仕様を製作。

3月号の作例をベースに増加装甲を追加するほか各部に改修を施したことで、

半分以上のパーツを新規に作る結果となっている。

## RMS-106C ハイザック・キャノン[増加装甲装備型]

T3部隊でジム・スナイパー型がベースにしていたキャノン・バックは、機体のヒール部を除く関節機能がでないハイザックの火力増強のために開発されたオプション装備である。その後のジェネレーター性能向上により、ヒール部も使用可能な機体が開発された。機体完成後は足らなかつたが、介助によって足踏方式で操作して使用されている。T3部隊ではさらに、増設装甲などを装備して戦闘力向上を著した機体でカールが運用している。

RMS-106C  
HI-ZACK  
CANNON with  
ARMOR unit

## RMS-106C

## ハイザック・キャノン(増加装甲装備型)

バンダイ1/144スケールプラスチックキット  
“ハイグレードユニバーサルセンチュリー”  
RMS-106Cハイザック改造  
製作・文 中村圭

またまた中村です。そしてまたハイザックです。今回は胸部増加装甲および予備弾倉付きです。ハイザック本体も先行型から量産型へとデザイン変更されています。

増加装甲はプラ材でのスクラッチ  
シールドは「HGUC量産型ザク」のものをハイザック型に加工しました。

脚部スラスターの固定板もプラ材で新規に作成。上半身も増加装甲の取り付けスペースを稼ぐため、後部左右にホリウムアップしたものを作り直しました。

足関節ブロックやフロントアーマーも胸部装甲に合わせたホリウムアップしてあります。

前回のハイザック・キャノンは「グリーンカラーで漆塗り」と思っていたのですが、今回はA.O.Z版ディターンズカラーに。ただしこちらも量産型ということで、先行型から一部塗り分けに変更になっています。

## ■PROFILE

なからし-けい 本誌プラ模マスターのうちのひとり。近足 劇場版 Z の試写会に行くことができました。色々感想はありますが、あえてひとつ思うなら、見た人は必ず「アッシャーか作りたい!」と思うはずです。元祖アッシャーモデラー(自稱)が言うのだから間違いない! ああ、HGUC出ないかなあ(て言ったら出るそうです! 作前やらせて!!)。(ガンダム占いで高機動型ザク)



推進器を兼ねたキャノン。バック本体には、マウントラッチが設けられており、キャノンの予備弾倉などを取り付けておくことができるようになっている。



ハイザックに特徴的に設置された増加装甲。いわゆるフルアーマータイプではなく、コクピット周辺だけを露出する軽妙な構造になっている。ガバルディギなどにも真似が可能。



右足にマウントされたシールドは中・近距離攻撃を目的としたこの機体ではデコウ・ストウ・エイトと名づける。近距離を扱うも関節を可動させるためにベースと同様、塗装したままとなっている。

T3部隊と戦ったハイザックタイプは先行試作型の改修機だったが、T3部隊に配備された新式高機動機、スラスターユニットなどに改良が加えられている。

## カラーリングデータ



- 1 黒(黒) 32B黒 プレー  
F8150G043黒・レッド+2黒  
ブラック  
2 黒(黒) 72黒・ミディアム  
ブルー+47黒・パール+1黒  
ホワイト  
3 オレンジ 173黒・電光オレンジ+4黒・イエロー  
4 グレー 2黒・ブラック+6黒・  
シルバー  
5 赤 66黒・モンザレッド  
※すべてGG/クレアスDMrカラー  
を使用。

# ガルバルディβに 高機動ユニットを装備させる。

制作者が使用していたガルバルディβは、一年戦争終結後に開発された機体というものであり、旧作の20年近く前には、すでに旧式機として扱われていた。そのため、マキシム・グラー・グリー大尉がティターンズから脱走するために使用した機体は、古びたものに見え、特に高機動ユニットを装備したものではない。この機体を時元がスクラッチで2005年8月号に掲載されたガルバルディβに一新を加え、オリジナル機体であるティターンズ高機動ユニットを装備した。

## RMS-117 ガルバルディβ 高機動型

一年戦争終了後にジオンに残されていた設計データをもとに、連邦軍が独自の改良を加えて完成したガルバルディβだが、基本型設計シムロイ・ハイゼルの改良で、搭載するべき部品がなかったことからティターンズが製造販売するに至らなかった。そのため、大規模な改良を行わず性能を維持するための方策のひとつとして、ブースターユニットを直接搭載することになった。この実験にはマキシム・グラー大尉とともにT3部隊にもたらされた機体が発見されたが、ハイゼルの司令官のトラップ・ブスターに近づくこと、機動性に劣っていた。

RMS-117  
GALBALDYβ  
with High Mobility Unit

## RMS-117 ガルバルディβ 高機動型

1/144スケールスクラッチビルド

製作・文 神光彰

## ■設定

今回のお話は5月号の予告とおり、ガルバルディβの追加武装用装備です。設定的にはバックパック上部はヘイズル等他のMSにも装着が可能で、シールドブースター2基を取り付ける場合、両腕の自由度が上がり試着の取り回しが大幅に改善されると思われる。また、ジム・ハイザック用のキャンノ砲らミサイルポットユニット等、目的に合った様々な試装を付け替えることもでき、多目的な運用が可能。

胸部には可動式のバーニアユニットが付き、逆噴射でのブレーキや姿勢制御に使用されるようです。

## ■製作

追加武装は5月号で作ったガルバルディβ本体(今回ちょっと改修してました)に合わせてプラ板の組み、接着などで製作。

本体のスケールを1/144にしてしまったので、胸部にかぶる追加装甲の部分などの厚みが十分に確保できず、製作中何度もバキッと、接合部分が割れる様な音を聞いています(最初から1/100の旧キットベースで製作すれば良かったかも。)

シールド・ブースターは以前イベント販売された「ヘイズル」のガレージキットの見本用として岩田氏にお願いして複製していただいたものを活用しています。

このシールドは設定的には黄色いラインなしの黒部と白のツートンカラーに変えられているのですが、前のままの配色のほうが「取って付けた感」があってテスト機っぽい感じが気に入ったので、あえてそのまま使用しています。



T32砲の発射機はすべてに使用されている強化型エネルギーコアを前面に配置したブースターユニット。通常は外装パーツを取り付けて運用される。前述のバックパックを防護するための暴走装甲に可動式のアームで接続されており、ヘイズル機のブースターポットと同様の可動域を持っている。



暴走装甲にはキハールの機体奥部に設けられたブリーチ状のスラスターを小形化したものが装着されており、フレキシブルな可動で姿勢制御を行っている。

スネの奥方にあるスラスターカバーを開放することで機動力の向上が図れるのみならず、カバーを置換板として使用することで大距間軌道変更をも可能にする。

## ■PROFILE

みさき みつあき 本誌唯一のスクラッチビルダー 本誌別冊「ガンダムスクラッチビルドマニュアル」著者 近江 隆雄に自分宛に送った文芸春秋 オス4機を返却した際に返ってきたところ 運に恵まれ、1機は箱として買収した。4機の中の手番で、返ってきた機に、又は機体に向かつて送るして本当に良かった。

[ガンダムとい プラウ・プロ]



ブースターユニット本体にはウェポンマウントランジが取り付けられており、写真のシールド・ブースターや長射程キャンノ砲、ミサイルポットなどが装着できるようにしている。

## カラーリングデータ

1番 67機 プール+80番 コ(ビルドブルー)+1番・市ウイット  
2番 68機 ブラック  
3番 69機 ブルー+70番 プール+158機・スーパーイタリアン  
4番 70機 ホワイト  
5番 71機 ホワイト+2機 ブラック  
6番 72機 スーパーイタリアン  
7番 73機 シャンパン  
8番 74機 オレンジ  
9番 75機 ベースに58機・機体色+1機・市ウイット  
すべてG01クレオスの「Mrカラー」を使用。





# ヘイズル改に 大気圏内飛行用ユニットを装備させる。



新たにT3部隊に配備された新機體。

TR-5の支援用装備としてヘイズル改に装着された大気圏内飛行用ユニット“イカロス”

後のパイランなどに替がるイメージでデザインされたこのオプション装備を影水寛か製作

過去に作者が製作した1/144スケールのヘイズル改に各ブロックを装着する方式で製作されたため、

すべてのブロックが取り外せるようになっている。





MSに飛行能力を持たせる計画は、一年戦争当時から進められ、大戦末期にシオンで開発されたMS-07H-Bで一部の完成を見た。しかし、飛行時間が短かったことに加え、シオンが攻撃に立たされた状況下では運用には見込まず、こうした飛行MSの研究は総務部に連絡部に引き継がれた。可変MAの出現により、飛行MSの実用性には疑問が投げかけられたが、可変機はMA形態でこそ飛行可能だがMS形態での滞空時間は短く長くしないというのが通案だった。そのため、MS自体に飛行能力を持たせるための研究は続けられ、そのデータ収集のために様々な実験が行われた。今回ヘイズル改に装備された飛行ユニットは、そうした研究のための試験機種のひとつであり、ベース・シッパハーやアジソンマーと比べると十分な飛行能力があるとは言いがたいが、大気圏内での滞空時間は従来MSの比ではないものになっている。

『X-121-1 カンタムTR-1[ヘイズル改]用飛行ユニット』イカロス





## RMS-106 ハイザック[連邦軍カラー]

バンダイ1/144スケールプラスチックキット  
「ハイグレードユニバーサルセンチュリー」  
RX-106 ハイザック(連邦軍カラー)改造  
製作 文 人 西 基

## ■HGUCハイザック

5年前に発売されたハイザックが連邦カラーで再登場です。先月号でベースジャバーを作ったのは偶然なのか? それとも後編部の画策か? とにかく、ストリートに絡んで仕方がないので、ハイザックでは兎門の腕部動力ハイクを中心に改造していきます。

## ■兎門の動力ハイク

設定画では動力ハイクが胴体から前腕につながっているのをこれを再現します

そのまま作ると腕の動きが制限されるので、まずヒザ関節カバーにスプリングに通したハイクの先端を挿入、それをループ状にして胴体に通し、もう一方の先端を再び関節カバーに挿入します。こうすることで腕の動きが一切制限されません。ハイクはコトピキヤの「モビルハイク」の一番小さいものを片側で32個使用しました。

さらに腕の動きをよりスムーズにするため上腕を「MGザク」からコンパート、そのままで大きくサイズをのりぎりまで削り込んで小型化。それに合わせて腕スライクアーマー、シールドも大型化しました。

肩関節は「HGUCマラサイ」から移植して前後にスイングするように改造。

胴部のモノアイは可動式に変更。

腕以外のハイクはマックスファクトリーの「プラスハイクMAX」に変更しました。

## ■おまけパーツ

ベースジャバーに乗ったハイザックの中には立てヒザをついているものもあるのですが、キットでは再現しづらいので、下半身のみを固定ボーズで製作。上半身を差し替えて再現可能にしてみました。

## ■PROFILE

ひとかべとけし 居住区住のハバゲラー 近況 ハバゲラーの呼び名が定着してしまっただけですが、こんど発表されるウロコ軍団のプラザは愛読者のために絶対に外せません。在画がないかなって思ってたのに、友も集められますか。またスプラッシュでか(画) [Zガンダム] さい さい(ベラテラ)

## ■カラーリングデータ

ブルー(黒) 34番・スカイブルー+1番・ホワイト+174番・蛍光ピンク  
ブルー(黒) 5番・ブルー+1番・ホワイト+174番・蛍光ピンク+2番・ブラック少量  
グレー・ガンダムカラー(CS100・グレー)(24)  
ブルー・35番・ターコイズエロー  
緑部・61番 緑黄色  
マシガン 2番・ブラック・パールコート  
スエ入れ (タマエエマルカラー)XPS-63 ヴァーマン  
グレイ  
※スエ入れを施さず、すべてGSシールドの「Mカラー」および「ガンダムカラー」を使用。

## 「HGUCハイザック」の腕部動力ハイクを設定画どおりに修整する

今号5年前に発売されたアイテムの色を再現してリメイクされた「HGUCハイザック(連邦カラー)」。このキットを人気が製作 キットでは設定とは異なるアレンジがなされた腕部動力ハイクを設定どおりに修整。さらに、先月号で制作したベースジャバーの腕をそのままだてヒザパーツも製作した。



市販パーツを用いてもモノアイを1/4に小型化。モノアイガードを深く削り込んでみる。口元のグロウはスリットスリに修正し、動力ハイクをシンチュウ機のものに変更した。



ハイザックの設定画に合わせて動力ハイクの位置を修整。上腕は「MGザク」のものも小型化して使用。それに合わせて腕ブロックも大型化した。



「HGUCマラサイ」から関節を移植。ヒザ関節から胴体を通り、再びヒザ関節につながる機になっている。腕の可動に干渉しないようになっている。



腕ブロックの大型化に合わせてスライクアーマーのパーツ接合部にブラを貼って大型化。スライクもよりシャープなものに改造した。



肩アーマーの大型化と他のバランスをとって、右腕のシールドも大型化。キットパーツの左右にブラを貼って腕を15度屈曲にしてみた。



キットのままでは自然な立てヒザボーズをとることが難しいため、腕ブロックから下の下半身を固定ボーズで製作。先月号で制作したベースジャバーに併せてみた。



2001年7月5日発売 価格 1,050円(税別)

# 岩田シオが仕上げた 完成見本でキットの 詳細を大公開!

ついに  
テストショットが公開された「HGUCヘイズル改」。  
キット化決定の第一報から10ヵ月を経て  
ついに来月の発売を待つばかりとなったわけだが  
パッケージおよび箱立説明書用の完成見本を用いて  
どこよりも詳しくキットの内容を紹介しよう。



## RX-121-1 ガンダムTR-1[ヘイズル改]

ハンダイ1/144スケールプラスチックキット  
“ハイグレートユニバースセンチュリー”

製作 岩田シオ (TEAM TACO)

この見本の塗装を手掛けたのは、A.O.Z. 第1弾に登壇したヘイズルを作り、以後もA.O.Z.の模型におけるカラーコーディネーター的な立場にあった岩田シオが担当。言うなれば、A.O.Z. オフィシャルカラーで製作された見本となっているのである。





# EX-121-1 GUNDAM TR-1 ZETA CUSTOM

© 1995 Gunpla Club, Inc. All Rights Reserved. High Grade Universal Century

このカラー見本で特筆すべきは、バンダイのパッケージ用サンプルにおける決まりごととして、合わせ目を消す以外の一切の改造が踏されていない点にある(そのため、ブレードアンテナの先端にある安全基準の突起もそのままになっている)。この点を踏まえてキットの詳細をご覧ください。



★カラーリングに関してはどうしても塗り分けを行う必要のある箇所も存在する。それでも肩甲骨ハーフ分割によって、合わせ目痕はもちろん塗り分けにもそれほどストレスはないです。



★このカラーリングは、バンダイのカラーリングガイドに準拠しています。また、このカラーリングは、バンダイのカラーリングガイドに準拠しています。



★頭部に内蔵されたボジキャップによって前後のスイングも可能



★カラーリングの他、このキットには、バンダイのカラーリングガイドに準拠しています。



★新機体により、色調にもハネライクに変わっており、これまでのガンダム系よりも、よりリアルな感じに。また、肩甲骨の合わせ目も消えていなくなり、より滑らかな感じに。また、肩甲骨のグリップホルダーも、より滑らかな感じに。また、肩甲骨のグリップホルダーも、より滑らかな感じに。



★右肩のグリップホルダーは、新しい構造式になっており、高速飛行時の機体の安定性を高める。また、オプション装備であるマルチ・ディスタージャーも、より滑らかな感じに。



★このカラーリングは、バンダイのカラーリングガイドに準拠しています。また、このカラーリングは、バンダイのカラーリングガイドに準拠しています。



★頭部は前後のスイングが可能になっており、ビーム・ライフルを両手で構えることができます。





すでに同様にされていることが、センターアーマーのオプションラッチの取付も無茶なで可動。もちろん、サブアーム・ユニットを設置した状態でも、オリジナル機体のマウントラッチとしてもしっかりと機能する。



サイドアーマーにはEハロアルダーの取付が可能。十分な補強とされた設計のおかげで、アルダーを装着した状態でも周囲のバランスが崩れることがない。



ブラスター・ボウの可動範囲も大きく広い。引き出し機能の活用で、固定と可動ブラスター・ボウが簡単に切り替えられる。



可動範囲が広いと可動範囲が狭いというデメリットがあるが、機体には90度以上上げられるようになった。素直な機体の設計にするとこうなるが、改造ポイントとして、改めて加える予定。



ブラスター・ボウは意外なバリエーションになっており、気口内の細かなモールディングも再現されている。



アングラーアーマーとの干渉が考えられた位置の可動範囲に可動範囲と、TR-1Xで取り上げられた車輪機構による機体位置の変更と機体色が大きく見えた。



## 「HGUCヘイズル改」発売に寄せて

岩田シオ

今回、バンダイさんのご厚意で「HGUCヘイズル改」のパッケージ用完成見本を製作させていただきました。

ヘイズルは藤原健氏のデザイン画はもとより、数々の本誌作業によってその姿が確立されていたキャラクターですので、おこまけいとは思いますが、それらに携わった電撃モデラーのみなさんの代表のつもりで作らせていただきました。

私事ですが、自分の作業でメーカーの塗装完成見本を作るのがモデラーを生業として以来の夢のひとつでした。それが連載開始当初から機体製作という形で参加させていただいた、A.O.Z.の「ヘイズル改」で実現したというのは、最高の思い出だと思います。キットはご覧のように素晴らしい完成度なので、ぜひみなさん発売当日、お近くのホビーショップに足を運んでみてください！

■PROFILE  
いまだにA.O.Z.の機体制作におけるカラーコーディネーターとして、連載開始から特にヘイズルシリーズのカラーリングを手助ける。A.O.Z.の連載を支えてきた岩田のひとりである。(Zガンダムといふイエロー)

次頁は「HGUCヘイズル改」大特集。  
岩田シオによる  
「HGUCヘイズル改」  
「完全塗装攻略ガイド」  
大増ページでお贈ります。



ヒーム・ライフルのEハロが黒化可能なほか、ヒーム・サーベルの刃はクリアパーツに交換できる。



これがヘイズル改のバックシート。他、HGUCのスタンダードなデザインにA.O.Z.のタイトルのつとブラックアウト。小銃・マフラー・小銃のウサギマークが入っている点にも注目。さらに黒化（可動）に留められた状態で見えるようにウサギマークが入っている。



発売は2005年9月17日。価格はこれだけのボリュームとプレイバリューでなんと1,300円(税込)！



2層のシールドは裏面に塗るまで完全に両面。シールド・ブラスターは背面中央の黄色い部分まで別パーツにされている。



シールド裏のジョイントも単ではなく、マウント・バックにスライドして差し込むようになっている。このジョイント部は別パーツであり、シールドが外れている状態でも見えないようにされている。



この「ヘイズル改」で新機に採用された、シールド・マウント。従来の機体とは異なり、シールドが外れている状態でも見えないようにされている。



発売は2005年9月17日。価格はこれだけのボリュームとプレイバリューでなんと1,300円(税込)！

RX-121-1  
GUNDAM TR-1  
HAZEL CUSTOM

# 「HGUCヘイズル改」 塗装ガイド完全版

パッケージ用完成見本を  
製作した岩田トシオが  
「HGUCヘイズル改」の  
塗り方を詳細に解説!

## RX-121-1 GUNDAM TR-1 [HAZEL CUSTOM]

BANDAI 1/144 scale plastic kit  
"HIGH GRADE UNIVERSAL CENTURY"  
modeled by Toshio Iwata

遂に発売された「HGUCヘイズル改」。本誌連載「アドバンス・オブ・Z」の主役機がHGUC化されたことだけでも本誌的には大トピックだが、このキットの内容が従来のHGUCを上回るハイクオリティモデル。これまで「A.D.Z」や「ヘイズル」を知らなかった人にも絶対オススメの逸品。そこで、特集の最初は「ヘイズル改」のパッケージ用完成見本を製作した岩田トシオによるマスキングを駆使した塗装ハウトゥーをご紹介します。

◆一見すると先月号に掲載されたハナゲーション用塗装見本とまったく同じように見えるが、アンテナの形状や塗装のためのディテールアップなどとは違ったアップグレード版になっている。「Z」ヘイズルからのハウトゥー記事を参考にすれば、キミにも、この作業と同じように塗装できるはずだ!



価格 1,385円(税別) 発売中  
初回生産分には本誌スタッフ編集による「ADVANCE OF Z」限定ガイドブックが付属。このハウトゥーが岩田トシオ!











# 「HGUCヘイズル改」カンペキ塗装ガイド

講師：福岡トシオ  
はじめに

今回の塗装は、エアブラシによるベタ塗りとスミ入れを基本にしています。そのため、塗り分けが不要な単色部(ヘルメットや上腕カバー、顔面部など)の解説は省略しました。

また、合わせ目の滑り方などの工作についても省略しましたが、それらは先月号の桜井(楓之)さんのバウトゥ記事を参考にしてください。

そのぶん、塗り分けが必要な部分に関してはできるだけ詳しく工程を追ってみました。マスキングテープを丁寧に貼るのは時間がかかりますが、丁寧に貼ったぶんだけキレイに仕上がるので、みなさんもボクの解説を参考にしてみてください。



上腕は完成後に貼れるので、大抵は下に下腕は貼るだけ丁寧に貼ります。



カメラ用のグリーンをエアブラシで吹きます。まずは目の周辺全体を塗っておきます。

## CHAPTER 1

### 使用カラー

グリーン 1番・ホワイト 00・ブルー 06 青アクリル 30%  
00 青 30% プラブルー 10%  
白(ベース色) 00 青 50% 白 50%  
白(ハイライト) 1番・ホワイト  
黄 1番・ホワイト  
スミ入れ 1番・青アクリル・プラブルー・スミ入れ  
スミ入れを塗るときは00青の「M」カラー(白)の「ガンダムカラー」を使用



今回は7色のエナメルカラーを使用。赤のライン部にフラットアースを塗ります。



マスキングを剥がして完了です。目のまわりのグリーンのみはみしめは次の工程で修整。



ボディカラーの白(ベース色)をバグ全体に吹き付けます。



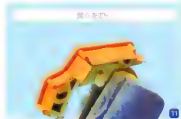
トサカのセンサーのハープは、目と同様、初めにグリーンを全体に塗ります。



エナメル塗料を塗り込んだままの状態で、目のまわりのグリーンのみはみしめは次の工程で修整。



目のまわりやハープの字モード等、強調したい部分はフラットアースを塗ります。



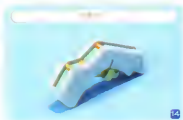
小さなハープなので、ハープ周辺のみではなくハープ全体に黄色を吹き付けます。



黄色の黄色を塗るため、下地として1番・ホワイトを吹いておきます。



黄色で塗る部分を事前にマスキング。簡易ではみしめができません。よう注意。



14

このパーツは「ハイスル改」の見え方のひとつ。丁寧に作業で美しく仕上げましょう



15

マスキングテープが角周りに貼れているのを確認したら、本体色の白を塗ります



16

テープの重ね貼りによる段差をなくするため、改めて1枚のテープを丁寧に貼ります



### 塗装後に組んだら合わせ目を見よう

こうした場合は横に、このままだとどうしても隙が空いてからヤスリがけをして合わせ目を消します。もちろん、塗膜は削がれますが、周りにこの色だけ白(ハイスル改)で再塗装すればOK。先に合わせ目を消してから塗装する場合はマスキングの難易度が高くなります

### 塗装する前に



写真のように削ればハミが収まりますが、角周りの角磨きが多少少なくなります(左が加工済)



角部で滑り込む隠蔽ハミ(上側)は、磨ハミにするため出っばりをカットしておきます(左が加工済)

## CHAPTER 2 全体

### 使用カラー

グリーン 1番 ホワイト 00%+00番・ダイトナグリーン 30%+00番・コバルトブルー 10%  
 黒(ハイスル改) 「ガンダムカラー」・ブルー14  
 黒(ハイライト) 「ガンダムカラー」・ブルー14 85%+1番・ホワイト 15%  
 白(ハイスル改) 00番・銀白色 50%+1番・ホワイト 50%  
 白(ハイライト) 1番・ホワイト  
 グレー 「ガンダムカラー」・グレー03  
 黄 「ガンダムカラー」・イエロー05  
 ※すべて00(クレオス)の14番カラー(およびガンダムカラー)



21

マスキングテープを貼ったまま、隠蔽金棒を黒(ハイスル改)でムラなく塗装します



22

センサー正面のグリーン部分をマスキング、小さな箇所なので塗料で塗りましょう



23

胴部に下段用の1番・ホワイトを塗ってから、センサー周辺にグリーンを塗ります



24

首まわりのモールドを残してホワイト部分をマスキングしたらグレーを塗ります



25

まずはハミ全体を白(ハイスル改)で塗装します



26

首面の中心に軽く黒(ハイライト)を塗き、センサーのテープを剥がせば完了

グレイ部の塗り分け



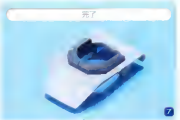
正面中央の半円状モールドを薄く、パーツ全体をマスキングしてグレイを塗ります。

胸中央プロットの塗装



まず、全体に白(ベース色)を吹き、乾いたらマスキングテープを貼ります。

完了



このモールドは比較的大きなものなので、刷で塗り分けてもいいかもしれません。

露色部分をマスキングする



露色部分をマスキングしてグレイを吹きます。テープを裏の面にしておくと剥がし易い。

クリフバーの塗装



まずは、パーツ全体に黄色を吹き、バーディングラインなどは消しておきましょう。

完了



中央のグレイ部分は小さくテープが貼られることがあるので、多少面倒でも白(ベース色)から塗ったほうがキレイに塗れます。

袖口を塗って塗装する



グレイ部を塗る。丸袖は凸凹なので筆を寝かせるようにするとキレイに仕上がります。

多目的ランチャーの塗装



ここはマスキングが難しいパーツのひとつなので、まず黄色をエアブラシで吹き...

完了



マスキングが難しい部分なので、モデルを型紙(バー)に比べて塗り分けてみる方法もあります。

## 塗装する前に

この写真で紹介しているフロントアーマーのヘリウムコアに陥ちます。よりシャープに見たいモデルについては、何んだかラインをカッターの先やタガキ針でなぞっておくとスミ入れがしっかりと決まります。



## CHAPTER 3 型紙

## 使用カラー

白(ベース色) 35番 半艶白 50%+1番 白(ベース) 50%  
黒(バリエーション) 1番 黒(ベース)  
グレイ 「ガンダムカラー」-グレイ-23  
赤 「ガンダムカラー」-イエロー-6  
黄 157番 スーパーブレイク  
ブルー 「ガンダムカラー」-ブルー-23  
赤 「ガンダムカラー」-レッド  
※すべてGSIクレオスのTMカラー。※お好みでガンダムカラー。

アーマー



アーマー内側にあるフレーム部分は先にグレイを塗っておきます。

モールドの部分



まず2ミリ程度の穴を開け、穴の外周に残った部分は彫刻刀で削って平らにしておきます。

リアアーマーのハーニア部



マスキングが難しい部分なので、モデルを型紙(バー)に比べて塗り分けてみました。



パーニア部の凹モールドを隠してマスキングします。この後グレーを吹き付けます。



パーニアの隅部には下地として黒を吹いておきます。



フレーム部分のマスキングごと、リアアーマーを白[ベース色]で全塗装しておきます。



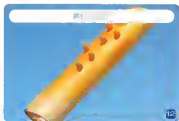
ウェーブ製(Uパーニアフラット 1)(左)と「Oボルト」2(右)を使ってパーニアノズルを再生します。



このグレーの部分保護を固したときに見える部分の手を確かめながら塗り分けします。



グレーを塗いたら塗装は終了。この後、2ミリの穴にパーニアパーツを差し込みます。



取手に合わせてパーニア内のパーツを黄色で塗装しました。



パーニアの隅部パーツは、黒色の下地として1層・ホワイトを吹きかけます。



ノズルの金属部を表現するため下地の上にシルバーを吹きかけます。



V字マークを再現するため、鼻部の赤い部分を細かく切ったテープでマスキング



V字モールドを赤で塗装しておきます。



リアアーマーに開けた穴に黒色のパーツを差し込み、その上からシルバーのパーツをかぶせます。接着剤のほみ出しに注意。



マスクを剥がせばちゃんと塗り分けられたV字マークが出てくるはずですよ。



白の上に黒色を吹きかけます。黒色は薄くやさしいのでこうした下地の白は大切ですよ。



鼻部の下地として1層・ホワイトを吹きかけます。



細かな部分ですが、完成後には意外に目立つ位置にある通り穴なので気を付けましょう。



フレーム部分を補し、あとはマスキング。これをグレーで塗装します



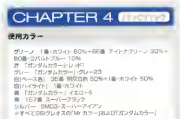
オプションマウントランタ基盤全体に白(ベース色)を吹き付けます



前面のプレートは先に赤を通ってからモールドに合わせて切ったテープを貼ります



センサー周囲をグリーンで塗装しマスキング。顔の色がライトグリーンなので、下地の白は抜いてません。



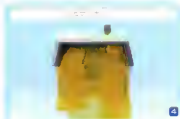
## CHAPTER 4 From 2

### 使用カラー

グリーン 1番・ホワイト 60%+60番 ティタニアグリーン 30%+  
80番+バムブルー 10%  
赤 「ガンダムカラー」グレイ=23  
白(ベース色) 20番・ホワイト 50%+1番・ホワイト 50%  
黒 「ハイライト」1番・ホワイト  
黒 「ガンダムカラー」イエロー=5  
黒 157番 スーパーブラック  
シルバー 5403・スーパータイタン  
※すべてG60クレオスの「Mr.カラー」および「ガンダムカラー」



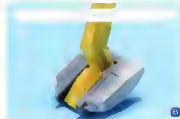
マスキングした上から、ボット全体に白(ベース色)を吹き付けます



前面のプレートを貼めてマスキングし直し、隙間ができないようしっかりと貼ります。



前面をグレーで塗装したらセンサー部以外のテープをすべて剥がします



アームと基盤下面のフレーム部分をしっかりとマスキングしておきます。



基盤は左右を貼り合わせて合わせ目を消してからメカ顔のグレーを吹きます。



センサー部は凸面になっているので、顔通りでもある程度キレには上げられるかもしれませんが。



基盤はブースターボードと同様、センサー部にグリーンを塗装します



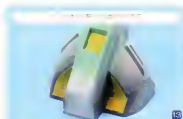
基盤の前後にある黄色いバーは接続線をカットして塗装後に撤ハメ推奨します



ブースターボード全体を塗り漏らさないように白(ベース色)で塗装します



バックパック本体に白[ベース色]を塗り付けます



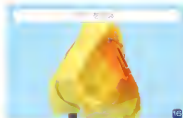
バーニア基部の形状に合わせて切ったテープをキットのラインと平行に貼ります



センサー部を丁寧にマスキングしてから、バーニア基部にグレーを塗ります。



すべてのマスキングテープを剥がせばバックパック本体の塗装は完了です。



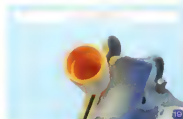
バーニア部の前面は曲面になっているので、テープの隙間に注意して塗装します



白[ベース色]を吹き付けたら、テープを剥がさずにバーニア部を残してマスキングします



バーニアの外側を塗るため、丸く切ったテープを貼って内側をマスキングしておきます



ホワイトを塗った内側に黄色を塗り付けます。塗料のほみ出しは気にしないでOK



黄色の下地に1層のホワイトを塗ります。エアブラシの圧力を低くしておきます。



テープを剥がしてバーニア周の塗装が完了しました

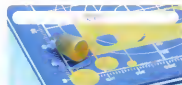


下地の黄の上からシルバーを塗ります。ここで仕上げの表層などを貼るのもいいでしょう

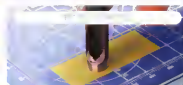


シルバーの下地として黄をバーニア全体に塗ります。

## オススメ工具



黄やガンダには様々な色ものがあるため、必要に応じて選んでおくといでしょう。市販のように丸く切った物だけでなく、穴の開いたテープのほうもマスキングに役立ちます。



カッティングシートにマスキングテープを貼る、ガンダを回転させるから押します。よく切れるガンダなら、あまり強く押す必要はありません。



円形部のマスキングには、写真の抜きガンダ(厚紙製など)に穴を開けるための工具(金)を利用すると便利です。抜き金で専用のもの(右)や先端を差し替えるもの(左)など色々な種類があります。

## CHAPTER 5 塗装

## 使用カラー

赤 「ガンダムカラー・レッド」  
 グレー 「ガンダムカラー」 グレー-03  
 白(ベース色) 35番 純白(白色 90%+1番 ホワイト 50%  
 白(ハイライト) 1番・ホワイト  
 ※すべてG80クレオスG(白)カラー※(※はガンダムカラー)



関節部と外側のダクト周辺にグレーを貼ってマスキングしておきます。



肩アーマーは関節部を貼ったまま白を塗って素塗装を消しておきます。



マスクをすべて剥がして肩アーマーの塗装が完了。



テープを貼ったままダクト内側を残して肩アーマーをマスク、黄色を塗きます。



ここで肩アーマーと同時に関節部も塗装しておきます。塗り漏らしに注意。



関節の塗装が終了。関節の後ハメ加工については15ページを参照してください。



手首関節部を残してマスキングしたらグレーを塗き付けます。



関節部は関節の後ハメ加工を行い、合わせ目を消してから全体に白(ベース色)を塗き付けます。



指先はマスキングが難しいので、少し大きめにレッド部分をマスキングします。



指先用の清を大切に取付けます！写真ほど大層である必要はありませんが、楽！



指先を赤く塗る前に、赤い部分の下地として1番・ホワイトを塗き付けます。



指先は綺麗にしたいと思うかもしれませんが、指の関節部分のシタツチなら、指の関節で少しずつ色を塗っていくように塗ればキレイに塗れます。



はみ出した清をグレーでリタッチ。指先は丁寧にマスキングしても指がしみますので、このほうが早くキレイに仕上がります。



マスクの上からグレーを塗り、テープを剥がすと赤が少しはみ出ています。



## CHAPTER 6

## 使用カラー

グリーン 1番 ホワイト 60%+60番 ティタニアグリーン 30%+  
60番 白(白+ブルー) 10%  
グレー 「ガンダムカラー」グレー2番  
白(ベース色) 3番 新緑色 50%+1番-ホワイト 50%  
白(ハイレイト) 1番 ホワイト  
黒 「ガンダムカラー」イエロー5  
黒(ベース色) 「ガンダムカラー」ブルー14  
黒(ハイレイト) 「ガンダムカラー」ブルー14 85%+1番-ホワイト  
15%  
シルバー 2MC3 ストロボ・ブイアン  
赤 「タミヤエナメルカラー」フラットブラック  
※ 参考色すべてG80クレオスG80(W/カラー)および「ガンダムカラー」



マスクする部分から入り組んだ形状なので、糊筒がてきないよう、塗料  
して塗装します



太モモのフレーム部をグレーで塗いてマスキング。ボンチで抜いた  
円も使用しました。



センサー線のテープの上から白(ベース色)をパーツ全体に吹き付け  
ます



スネハートのセンサー線のグリーン塗面にパーツに吹き付けてから  
マスキング



マスクを剥がせば太モモの塗り分けが完了。ほみ出しは白(ベース色)  
で修整しましょう



テープをすべて剥がせばスネハートの塗装が完了



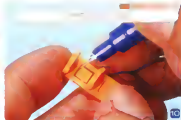
脚部塗装と同様、このモールド部分にグレーを吹き付けます



ヒザの正真正の半円模モールドを隠してスネパーツ全体をマスキング。



フラットブラックを筆塗り。こういった異なった塗料の塗色には稀様  
可能なエアブラシ塗料の使用をおススメします



フィンのダクト部などの狭まった箇所は塗料前に「ガンダムマーカ  
ースミ入れ用」などでフタを空けておく必要が有ります。



ヒザのフィンのパーツなどの面積の広い部分は、原本色に1番-ホワイト  
を塗った上で軽くハイレイトを入れておくと華やかになります



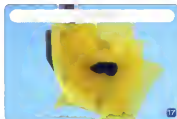
黄色のバーニア部を隠してスネパーツ全体をマスキングします



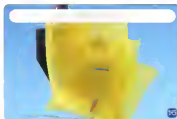
パーツ全体に白(ベース色)を吹き付けます。これは乾色に濃い色ですが、  
どうも白(ハイレイト)を上吹きしています



ベタ部はブラウンやグレー等、周囲の色に合わせた色を使うとより自  
然に仕上がります。



今回のは性の部分と合わせるためにエアブラシで塗装しましたが、ここはエナメルカラーのグレーでスミ入してもよいでしょう



テープを一度剥かし、今度はグレー部を削してマスキングします



バーニア部分に真色を吹き付けます。静電気できれいに塗装



足裏後方のフレーム部をグレーで塗装してからマスキングを行いました



足裏は、形状の替りでグレー→白(ベース色)→グレーという定石とは異なる順で作りました



ヒジ裏面の丸モールドはマスキングが難しいので、エナメルカラーを塗って埋めました



足裏の甲の塗装はこれで完了



足裏の甲部分のフレームのような凸部分はテープの跡を防ぐため、黒色をマスキングしたほうがキレイに塗れます



マスキングした上から白(ベース色)を足裏の甲パーツ全体に吹き付けます



マスクの上から胸と同じ黒(ベース色)をハーツ全体に吹き付けます



一番、ホワイトの上に黄色を吹き、バーニア内にハンズで削いた丸テープでマスキング



定員のバーニアを顔パーツにしてもよいのですが、ここではフツを塗装する方法で対応してみます



足裏の塗装が完了。これで「ヘルズ」全体の塗装はすべて終了しました



丸テープを剥がしたら、筆を使ってバーニア外側のフチをシルバーで塗ります



バーニア部分のフレームを塗るため、黒色をマスキングしてグレーを吹き付けます



あとは全体をグレーで塗装し、マスキングテープを剥がせば完成です。

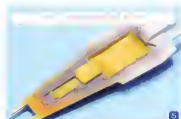


右の目蓋を開き、センサー部を白(ベース色)→グリーンで順次塗装してマスキングを行いました。

## CHAPTER 7

### 使用カラー

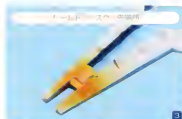
グリーン 1番・ホワイト 60%+60番 タイタニアブルー 30%+60番  
 コバルトブルー 10%  
 赤 「ガンダムカラー」・レッド1  
 グレー 「ガンダムカラー」 グレー20  
 白(ベース色) 20番 白磁土色 50%+1番 ホワイト 50%  
 白(ハイランド) 1番 ホワイト  
 黒 「ガンダムカラー」・ネイビー1  
 +すべてG819カメシオの「Mr.カラー」および「ガンダムカラー」



黄色部のテープの上からグレーをモールド全体に吹き、テープを貼り重ねて白(ベース色)で全体塗装



モールドのあるあたり全体を黄色で塗装して、バーのモールドにテープを貼ります



バーの部分に黄色を吹き、バーのみマスキングして全体に白(ベース色)を吹き付けます



頭部にスミ入れを行うと、全体が引き締まり、筆塗りによる円のゆがみも気にならなくなります



背面の青い丸は筆塗りです スミ塗りからはみ出ないように注意して塗装します



塗分けは以上では完了、一体化した部分も多いのではみ出しに注意してください。



これでモールドの塗り分けが完了しました



これもシールドブースターと同様 グレーを吹き重ねたら、マスキングして白(ベース色)を吹きかけます



シールドブースターと同様、黄色を塗ってからマスキングを行います。

### 最後に

いかがだったでしょうか？ 今回の記事ではすべての工程を見せるというコンセプトで、エアブラシ塗装(しかもマスキング部分)のみのハウトゥであるにもかかわらず、かなりのページを割いてもらいました。実際にはスジ塗り、筆塗りやグラデーションの考え、筆塗りのポイントなど、まだまだ書けていないテクニクも山ほどあるので、またこんな機会をいただければ、今度はそうしたポイントについても解説したいと思います。なにはともあれ、このとおりに塗ればベタ塗りであってもすべての塗分けがきれいにはできるはずですので、「HGDヘイズル」を買った方は、ぜひ塗面に挑戦してみてください。

福田トシオ

### リタッチ



こうした塗り漏らしは、筆を使うか再びマスキングしてリタッチしてかきます

### 塗り漏らしを発見...



テープが剥いて、色かにしこんでしまった部分を発見しました。



# RX-121-1 GUNDAM TR-1 [HAZEL CUSTOM] TITANS BLUE version

HGUC RX-121-1 Gundam TR-1 [HAZEL CUSTOM]  
modeled by Hiroshi Inoue



## ヘイズル改 [実戦配備カラー]を 先行公開!

HGUCヘイズル改の作例2作目は射水空による改修例。キットの気になるポイントに改修を加え、今後のフォト＆ストーリーで登場する実戦配備カラーに塗り替えた。

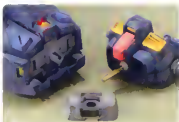
●各同様のカラー設定(左裏参照)をもとに塗りかえられたヘイズル改。全体の配色はシム・クセルやガンダムMk-II風に近く、いかにもディテールが細いといったものになっている。

## RX-121-1 ガンダムTR-1 [ヘイズル改]実戦配備カラー

■これが新機体による「実戦配備カラー」の色設定。本頁中では「エコー」などの旧機体によりディテールはエコーパーツを正しくリブアップとして設定。それにもないY3部像は通常の実戦テストに加え、より厳格的な作戦も遂行することとなり、ヘイズル改もそれまでのテスト用のカラーから実戦配備用のカラーに塗り替えられた。」ということになっている。



■頭部はアンテナをシャープに削ったほか、複眼間の合わせ目を設定どりの「ハズルライン」にして振替するため1色深く塗り替えた。



■顔と機体の接続部をボールジョイントに変更し、上半身がより自然な形で振るようになるように調整。さらに左右にもスイングできるようにした。



■顔のパーツを新造し、それに合わせて首周りのディテールアップも行った。



■キットは上新部を固定部ブロックに組み込む方式だが、作例では上新フレーム内にギアパーツを埋め込み、固定部ブロックに取り付けにシジク線で接続した。



■肩アーマーはキットの左右分断から写像のような3分割に変更。塗装後に固定部と組み合わせて取り付けられるようにした。



■胸甲正面ブロックの下には多目的ラッチ用のバーがあるという設定だが、キットでは成形の都合で省略されていたのでプラ棒で再現。



■キットでは足部と一体化した手動関節のカバーを滑り滑として自作したカバーを再現。可動関節はキットのもので大差ないが、削げたときに滑りが見えなくなるのが特徴。



■キットではシジク線を前面で組み込むことになっているが、作例では関節フレームと関節内の軸を写像のように加工して、塗装後に埋めるようにした。ただし、この加工はしっかりと滑りやすいというデメリットがあるので注意。



↑ゼーベルの腕の先端部のアンテナ1は、従来の異なるゼンデュウ  
部を2本取り付けた固定タイプの形状に変更



↑ブースターボックス上のシールド・ブースター接続部はボリハーツが  
丸見えになっていたため自作したフタを取り付けた。接続用の軸（ブラ  
ク）はボリハーツのものがより正確にフィットすると見た感じがしやすい。



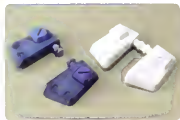
↑頭部前ブロックにもボリハーツカバーを取り付けたが、ここではと  
んと見えない部分なので、気になるときは参考しよう



↑肩アーマーはリアが見え隠れしたままなので、キットのハーツを中  
央と真中に分割。市販の可動ハーツを埋め込んで動くようにした



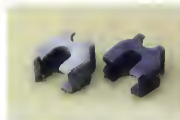
↑サイドアーマーに取り付ける6ハックホルダーは裏面が空回りなので  
キットをもう1セット使って裏面のディテールも再現。



↑フロントアーマーは足裏の左右分割でそれぞれ独立可動させら  
れるようにした



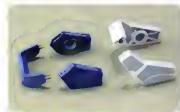
↑リアアーマーのバーニアノズルはすべてくりぬき、市販のバーニ  
アノズルに変更。アーマーの空洞よりプラ板を貼って埋めてある



↑キットでは車立ちさせたときにヒザ裏に隙間ができたため、作例で  
はヒザ関節パーツの裏面下部を延長し、隙間が立たないようにした



↑センターアーマー基部のバーニアノズルも削り落として市販のデ  
ィテールアップパーツに変更した



↑アングルアーマーはキットのままでほとんど合わせ目が目立た  
ないのだが、作例では写真のように分割万を必要と合わせて合わせ目が  
完全に出ないようにした



↑足首はボールジョイントの接続部分をスネから足首に変更。スネ  
裏を通るボリハーツに、軸を長いものに替えたことでより足首の  
可動範囲が拡大した

## RX-121-1 ガンダムTR-1 [ヘズル改] 実戦配属色

バンダイ/1/44スケールプラスチックキット  
"ハイグレードユニバーサルセンチュリー"  
RX-121-1 ガンダムTR-1 [ヘズル改] 改造  
製作・文 朝水宏

### ■Kit発売

遂に「HGUCヘズル改」が発売されました。僕も A.O.Z. には何度が作例で参加させて頂いており、また、他のライター仲間があれこれ苦勞をしながら作例制作をしているのを見聞きしてきていたので、色分けされたランナーを見ただけでも感慨深く感じてしまいました。

これを皮切りに A.O.Z. に登場する他の機体もキット化してもらえるというらしいので、

### ■頭部

ツノをシャープにした以外はそのまま。首はプラ板等で作り直し。その際、キットの首パーツよりも若干長めに作って、アゴが引けるようにしました。

### ■胴体

腰を反らすとおなかに隙間が空くので、ここを「MGガンダム[Ver.ONE YEAR WAR 007 3]」のような構造に改造。それにともない、左右にも若干スイングできるようにしました。

また、リアアーマーが太ももに干渉するので、キットのパーツを切り離して可動式に。お尻周りの小さなバーニアは全てウェーブの「バーニアフラット」に変更しました。

### ■胸部

後ハメを兼ねて肩アーマーを中央ブロックと前後の板に3分割しました。

肩ブロックと上腕の接続部は、キットの組み込み式からボリパーツとシンチュウ線による差し込み式に変更。

前腕も関節部が組み込み式なので、ここもヒジブロックと後ハメできるように加工しました。

キットでは前腕と一体化している手首カバーも別パーツ化。手首の動きと連動するようにして見栄えを上げました。

手首はキットをもう1セット使い、平手を使って握り拳を再現しました。

### ■腿部

ヒザ関節は後ろ側下部に隙間があるのでプラ板で下に延長。パイプ状のモールドはプラ棒から製作しました。

足首関節は、ボールジョイントの受けをスネ側から足首側に移し、つま先をより大きく動かせるように加工。またこの加工によって、足首を内側に傾けた際にスネと足のラインがより自然につながるようになります。

ついでに金属パイプとプラパイプでシンダーを造る。それぞれ、スネの内側と足首にパイプスプリングで接続してあります。

### ■バックパック

上部のセンサーを凸凹に加工。シートブースターのラッチ柄はボリパーツが見えただけなので、プラ板とプラ棒で作したフタを取り付けました。

### ■おわりに

今回はわりとあっさり製作しましたが、ディテール面でも顧問氏の西郷を参考に色々と手を加えてみたかったです。その辺はまた機会があればということで。それではまた。

### ■RCDPLS

いぬす ひろし 本誌が刊行可能なモデルマスターのひとり。近況：Zガンダムを試写で見た。いぬしは僕の好きな可変機も数多く出てきたので、僕は中々でメソッドとメタスが好きなのでバンダイさん、キットに期待してます。(Zガンダム51) サイコガンダム36(3)



カラーリングデータ

ブルー 80番・コバルトブルー 50番+37番・RL75グレイ・パイレット・25番+1番・ホワイト 15番+18番・モンテレッド 10%  
タークブルー 71番・ミッドナイトブルー 50番+80番・コバルトブルー 20番+1番・ホワイト 15番+88番・モンテレッド 5%  
グレイ 306番・グレイF5362708・50番+13番・ニュートラルグレイ 10番+1番・ホワイト 40%  
レッド 58番・モンテレッド 80番+1番・ホワイト 20%  
※上記4色はそれぞれ1番・ホワイトを足して前面をよけたものをホワイトとして使用  
イエロー(下地) 80番・オレンジ 80番+1番・ホワイト 20%  
イエロー(パイライト) 56番・黄褐色 70番+1番・ホワイト 30%





# 「HGUCヘイズル改」を 旧1号機に改造する



## RX-121 GUNDAM TR-1 [HAZEL]

BANDAI 1/144 scale plastic kit High Grade Universal Century  
旧1号機 GUNDAM TR-1 [HAZEL CUSTOM] modeled by Nobuyuki Sakurai

RX-121 ガンダムTR-1[ヘイズル]

発売から1ヵ月が経過した「HGUCヘイズル改」

今回はこのキットを使って先月号の予告どおり「旧1号機」こと「ヘイズル」を桜井潤之が製作  
胸部と腰センサーアーマーを改造し、旧1号機の最大の特徴でもある「イエローライン」を再現した



# 岩田トシオが仕上げた 完成見本第2弾。 「HGUCアドバンスド・ ヘイズル」はこう塗ろう!

本誌とほぼ同時発売となる「A.O.Z」からの  
キット化第2弾「アドバンスド・ヘイズル」。  
1号機である「ヘイズル色」の色替えに留まらず、  
サブ・アーム・ユニットや  
新型シールド・ブースター、強化型センサーなど、  
豊富なオプションを追加した仕様になっている。  
ここでは、「ヘイズル」の塗り方と、  
岩田トシオによって仕上げられたこのキットの完成見本を  
公式なカラーリングサンプルとしてご覧いただく。

## 1/144 GUNDAM TR-1 ADVANCE MED HAZEL



RX-121-2A ガンダムTR-1 [アドバンスド・ヘイズル]

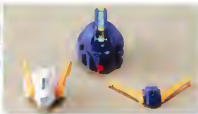
バンダイ 1/144 スケール プラスチックキット  
「ハイグレードユニバーサルセンチュリー」

製作 岩田トシオ (TEAM TACCI)

これが「アドバンスド・ヘイズル」のパッケージにも掲載されている完成見本。40ページに掲載されている修補線稿のイラストとは細部の配色が異なっているが、実ほどちかも間違っていない。こうしたカラーリングの違いについてはホビーマガジン2008年1月号の別冊付録「A.O.Z モデリングマテリアル」を参照のこと。



シム スナイパーシリーズのセンサーユニットをベースに設計された強化センサーユニット。ユニットでは再現されていないが、精密射撃の際には光量感のカバーが下にスライドしてメカが露れる。また、ユニットではブレンジャーとの差し違えてノーマルヘルトに直すことも可能



アドバンスド・ヘイズルに装備された新型ブースター・ボットは、旧タイプのものとは異なり、シールド・ブースターを2番マウントできるようにしている。これにより高い機動性を維持しながら、肉弾が自由に使用できるようになった。なお、この新型ブースター・ボットは、ガルバリディで実装される予定だったものの改良型である



機動力向上のために定額に設置される補助スラスターユニット。最終的にはGP01フルバニアンにも近い構造だが、技術的な違いは不明。カカにスラスターがあるという観点から、全体のシルエットはハイゼールに近い。

ヘイズルがデストが行われたサブ・アーム・ユニットがアドバンスド・ヘイズルにもオプションとして装備されている。緊急時にはこのサブ・アーム・ユニットによる射撃も可能だが、その際には機動を切り替える必要はならず。本来の設計が同一使用不能になる。

## カラーリングデータ

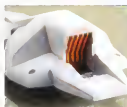
1番「ガンダムカラー」・ブルー  
2番「ガンダムカラー」・ホワイト  
3番「ガンダムカラー」・ブルー  
4番「ガンダムカラー」・ブルー  
5番「ガンダムカラー」・ブルー  
6番「ガンダムカラー」・ブルー  
7番「ガンダムカラー」・ブルー  
8番「ガンダムカラー」・ブルー  
9番「ガンダムカラー」・ブルー  
10番「ガンダムカラー」・ブルー  
11番「ガンダムカラー」・ブルー  
12番「ガンダムカラー」・ブルー  
13番「ガンダムカラー」・ブルー  
14番「ガンダムカラー」・ブルー  
15番「ガンダムカラー」・ブルー  
16番「ガンダムカラー」・ブルー  
17番「ガンダムカラー」・ブルー  
18番「ガンダムカラー」・ブルー  
19番「ガンダムカラー」・ブルー  
20番「ガンダムカラー」・ブルー  
21番「ガンダムカラー」・ブルー  
22番「ガンダムカラー」・ブルー  
23番「ガンダムカラー」・ブルー  
24番「ガンダムカラー」・ブルー  
25番「ガンダムカラー」・ブルー  
26番「ガンダムカラー」・ブルー  
27番「ガンダムカラー」・ブルー  
28番「ガンダムカラー」・ブルー  
29番「ガンダムカラー」・ブルー  
30番「ガンダムカラー」・ブルー  
31番「ガンダムカラー」・ブルー  
32番「ガンダムカラー」・ブルー  
33番「ガンダムカラー」・ブルー  
34番「ガンダムカラー」・ブルー  
35番「ガンダムカラー」・ブルー  
36番「ガンダムカラー」・ブルー  
37番「ガンダムカラー」・ブルー  
38番「ガンダムカラー」・ブルー  
39番「ガンダムカラー」・ブルー  
40番「ガンダムカラー」・ブルー  
41番「ガンダムカラー」・ブルー  
42番「ガンダムカラー」・ブルー  
43番「ガンダムカラー」・ブルー  
44番「ガンダムカラー」・ブルー  
45番「ガンダムカラー」・ブルー  
46番「ガンダムカラー」・ブルー  
47番「ガンダムカラー」・ブルー  
48番「ガンダムカラー」・ブルー  
49番「ガンダムカラー」・ブルー  
50番「ガンダムカラー」・ブルー  
51番「ガンダムカラー」・ブルー  
52番「ガンダムカラー」・ブルー  
53番「ガンダムカラー」・ブルー  
54番「ガンダムカラー」・ブルー  
55番「ガンダムカラー」・ブルー  
56番「ガンダムカラー」・ブルー  
57番「ガンダムカラー」・ブルー  
58番「ガンダムカラー」・ブルー  
59番「ガンダムカラー」・ブルー  
60番「ガンダムカラー」・ブルー  
61番「ガンダムカラー」・ブルー  
62番「ガンダムカラー」・ブルー  
63番「ガンダムカラー」・ブルー  
64番「ガンダムカラー」・ブルー  
65番「ガンダムカラー」・ブルー  
66番「ガンダムカラー」・ブルー  
67番「ガンダムカラー」・ブルー  
68番「ガンダムカラー」・ブルー  
69番「ガンダムカラー」・ブルー  
70番「ガンダムカラー」・ブルー  
71番「ガンダムカラー」・ブルー  
72番「ガンダムカラー」・ブルー  
73番「ガンダムカラー」・ブルー  
74番「ガンダムカラー」・ブルー  
75番「ガンダムカラー」・ブルー  
76番「ガンダムカラー」・ブルー  
77番「ガンダムカラー」・ブルー  
78番「ガンダムカラー」・ブルー  
79番「ガンダムカラー」・ブルー  
80番「ガンダムカラー」・ブルー  
81番「ガンダムカラー」・ブルー  
82番「ガンダムカラー」・ブルー  
83番「ガンダムカラー」・ブルー  
84番「ガンダムカラー」・ブルー  
85番「ガンダムカラー」・ブルー  
86番「ガンダムカラー」・ブルー  
87番「ガンダムカラー」・ブルー  
88番「ガンダムカラー」・ブルー  
89番「ガンダムカラー」・ブルー  
90番「ガンダムカラー」・ブルー  
91番「ガンダムカラー」・ブルー  
92番「ガンダムカラー」・ブルー  
93番「ガンダムカラー」・ブルー  
94番「ガンダムカラー」・ブルー  
95番「ガンダムカラー」・ブルー  
96番「ガンダムカラー」・ブルー  
97番「ガンダムカラー」・ブルー  
98番「ガンダムカラー」・ブルー  
99番「ガンダムカラー」・ブルー  
100番「ガンダムカラー」・ブルー





ザブ・アーム・ユニットは  
片腕で合致する所の可動  
軸が設けられており、カ  
タビが大きく動かせるよう  
なになっている。本来はあ  
らかじめプログラミング  
された動作によって、ドレ  
ックの立役や武器の機能  
などを代行するための装置で  
ある。

サブ・アーム・ユニットは  
腕のヤンター・ターマーに  
設けられたラッチに接続  
される。キットでもセンサ  
ー・アームの前後をスト  
ッパーとして使用するこ  
とで、無改造での差し違  
えが可能。可動部の多い  
箇所なので必要強度に注  
意。



アドバンス・ヘイズル用  
の新型シールド・ブラス  
ター(写真左の白いリレ  
ール)。シールド表面に凸  
凹11の形の拡張ビーム砲  
が設けられており、主に  
対空戦闘に使用される。  
このため、ブラスターと  
しての性能はこれまでの  
ものよりも低くなっている。  
作例ではヒムロッドとス  
ラスタースのフィン  
を塗り分け。

顔や胴体は「ヘイズル改」  
と関係のハイク構造とな  
っており、転換のみが主  
なっている。作例でもキ  
ットの成形色に合わせた  
黒色塗装を施したほか、  
センサー・ユニットを既定ど  
おりに塗り分け、塗り分  
け方については70-81  
ページの「ヘイズル改」の  
塗装イラストを参照のこと。



前部の変換部分に対して「ヘイズル改」とほとんど変換のな  
い結果、右側バーニアノズルやセンサーなど塗り分け動  
作の多い部分だが、丁寧に塗り分けられている。

胴体もキットの成形色やヘイズルに設定どおりに塗り分けである。補助スラスターユニットは下層から  
塗るバーニアノズルに見える構造になっているので、こゝも丁寧に塗り分けよう。

# RX-121-2A ガンダムTR-1 [アドバンスド・ヘイズル]

バンダイ / 1/44スケールプラスチックキット  
「ハイグレードユニバーサルセンチュリー」  
RX-121-2A ガンダムTR-1 [アドバンスド・ヘイズル]  
製作・文 岩田トシオ

早くも登場したヘイズルキット第2弾! 「次はフルアーマーたるじいや、2号機だ」といったベタな予想を覆切り、最新装備のてんこもり! はやる気持ちを抑えつつ、異変キットデビューをお届けしましょう。

今回の作例は、「ヘイズル改」と同様、キットのバリエーション用完成品として製作したため、ハーテングラインの板厚と合わせ目消し以外の工作は行っていない。ですがうがいかにキットの出来が素晴らしいかが分かっていただけたと思います。

ヘイズル本体は当然、成形色が変わっていますが、パーツもすべて付いているため、毎度決まる乗組員カラーを楽しむことができます。ただし合わせ目を消す場合、バックパックのジョイントが1つしかないのでもちろんの形を適応することになります。

機体強化センサーは完成品も組み換えが可能です。目立つ部分なので合わせ目消しは丁寧に行い、定額工作としてアンテナをシャープに削るとよいでしょう。肩コブスター・ホッドは、設定にあるように「HGUCセカイイン」のフロベラントタンクを取り付けることが可能です。

新機体は裏面が一体化なので塗り分けが必要ですが、ヒューズ口の各部はエナメル筆塗料を使ってスミ入りの塗装で塗れば意外と簡単に仕上がります。

サブ・アーム・ユニットは細線の細みに注意! もうなにも言うことはありません。スバラシイ!

足元の補助スラスターユニットは現物は無いのですが、通常のハザードは必要なので「ヘイズル改」を持っている人はノールと交換するとよいでしょう。

「HGUCヘイズル」の塗装も今回で3色ですが、キットがこれだけパーツ分割されている、やはりヘイズルの塗装はシロイデです。塗っている部分にヘイズルなのか、と思えば、板厚が厚いだけに、やっぱり「シロイデ」とのこと。そこで、バンダイさん、ぜひMBで塗り分けやすいヘイズルを出してください(笑)、ではまた。

## ■PROFILE

機体・とし 1/44スケールの機体製作におけるカラーコーピング・スライダース。近頃、今更にもう1度この世界で完成品を製作させていたが、正直、最近の完成品がユーザーの期待に及ばない。でも、これを機体というなら、ヘイズルさんの完成品が見られるようになるというので、(Zガンダム)の「ヘイズル」



2005年11月26日発売 価格 1,800円(税別)  
発売元 バンダイホビー事業部



ICHIM 2006  
"comes up!"



足元装備をすべて外したノーマルのヘイズル2号機。背中の補助スラスター・ホッドと一部の配色はヘイズル改の異変記異変カラーと変わらないため、旧機体強化センサーユニットと足元補助スラスターユニットは、今後可能の機体改造になるようだ。



「アドバンスド・ヘイズル」のキットには肩補助スラスターを添えるためのパーツがセットされている。実はこれ、わざわざ手の甲が白く塗り分けられている「ヘイズル改」のパーツ。このパーツとバック・アーム・ユニットを組み合わせて機体カラーの再現も可能であるようにしている。



「ヘイズル改」にアドバンスド・ヘイズルの機体カラーをすべて再現した「強化ヘイズル改」(7)。今回はさらに専用バックパック(フルコン)を装着した状態を紹介する。



# 「HGUCヘイズル改」を 作るための後ハメ加工 ポイントを詳しく解説する

HGUC「ヘイズル改」の発売から8ヵ月、  
発売当初から売れ残りが続出し、  
今期の「アドバンスドヘイズル」でようやく  
キットを手に入られる人もいないではないだろうが、  
そこで今回は、改めて「ヘイズル」シリーズを造る際の  
後ハメ加工について、小松勝幸が解説を行った。  
カラーリングはあえて「ヘイズル改」を再現。  
70〜81ページの「カンペキ塗装ガイド」と併せて読めば、  
より丁寧に塗り分けられるはずなので参考にしてほしい。

「ヘイズル改」は「ヘイズル」  
から改造された最後のグレートーンで描出し、追加塗装  
である「アドバンスドユニット」  
との差別化を期してある。







# RX-121-1 ガンダムTR-1 [ヘイズル改] アドバンスユニット装備

バンダイ/1/144スケールプラスチックキット  
“ハイグレードユニバーサルセンチュリー”  
RX-121-2A ガンダムTR-1 [アドバンスド・ヘイズル]改造  
製作 小松敬幸

●強化センサーユニットはモアイカバーの分断ラインを切り直し  
削ハーツを演出した



●関節部フレームはキットのパーツ(写真左)の で開いた部分を削って  
接合できるようにした 完成後の角鋭さも考慮して キットの形状  
が大きく変わらないようにしている



●ノーマル、小松ともにブースター・ボルトは可動部の強度を確保す  
るためには接合ハズをしっかりとしない部分なので、丁寧に合わせ目を消して  
から、マスキングして塗り分けよう



●●関節部は脚部で試みるという「HOLIC」シリーズでは一般的な構  
造だが、上級ハーツ(真)の接続線を写真右のように削ることによって  
組み立てることが可能になる 組み立ての際には背中からはめて  
脚ブロックを下に閉じるようにはめ込むOK



●ノーマルブースター・ボルトのハーツは写真のように接続ピンを削れ  
ば接合可能 ヒンはほとんど残らないので、最終的には研磨した  
ほうがいいだろう



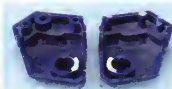
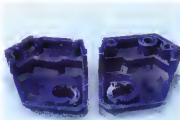
●●サブ アーム ユニットはキットのままでもすべてのパーツを適  
切に組み立てられるようになっている アーム先端のクローも動きど  
おり動く塗り分けよう



●新型ビートルド・ブースターは先月号に掲載された最終段階のイラ  
ストを参考に塗り分けたい



●●キットにはノーマルのブースター・ボルトと小松版ブースター・ボ  
ルトの2種類がセットされている バックハックのフタを掲載しない  
で、少しだけ隙を開けておけば、完成後にも差し替えができるように  
なる



※肩アーマーは肩関節ブロックの軸受けを写真のようにハの字に折ることで、合わせ目を消してから関節ブロックを取り付けられるようになる。なお、この肩アーマーでは軸受けの内径上側がわずかに平らになっているため、軸受けの下側を折ると関節強度が大幅に低下するので注意しよう



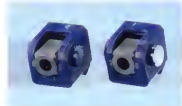
①アドバンストヘイズルには関節部(ジョイント・ブースターモード)時に真上のグリップバーを握るための拳が搭載されているが、軽く手を握ったときの拳としても違和感のない造形になっているので、平手しかなかった「ヘイズル」の左手にも使ってみよう。



※肩フレームを後ハメするため、フレーム上側の接合部も写真のような長方形に加工する。横の目安はパーティングラインを中心に左右それぞれゲート跡の幅まで削ればOK(写真の高いラインが参考)



※肩のフレームも肩関節ブロックで挟み込む方式なので、肩関節ブロック下側の写真で白く塗った部分を削っておく。



※肩関節ブロックを後ハメするため、両側の接合部は写真で白く塗った部分を深く削っておく必要がある。削りすぎると強度が低下するので、慎重にならねばならない。



※肩フレームを後ハメするため、さらにシールドを保持する部分を深く削っておく必要がある。ここは写真で白く塗った部分を深く削ればOK



※肩フレームを前側に後ハメする場合は、軸受け部分を写真の白く塗った部分でハの字加工しておく。これも真面目に削らねばならない。削りすぎたら真面目に削っておく。



※さらに、前腕パーツの内側にある白く塗ったピンも後ハメの際に邪魔になるので完全に削り落としておく



以上の加工で前腕にできる合わせ目を消し、塗装してからでも胸のフレームが取り付けられるようになる。



# RX-121-1 GUNDAM TR-1 (HAZEL CUSTOM) /w ADVANCED UNIT

BANDAI 1/144 scale plastic kit High Grade Universal Century  
RX-121-2A GUNDAM (R-1) ADVANCED HAZEL  
multiplied by Takayuki Komatsu

## RX-121-1 ガンダムTR-1 [ヘイズル改] アドバンスユニット装備

バンダイ1/144スケールプラスチェックキット  
“ハイグレードユニバーサルセンチュリー”  
RX-121-1ZA ガンダムTR-1  
[アドバンス・ヘイズル]改造  
製作 文・小池雄幸

### ■頭部

元々ハーンの分割線がモールドになるようにデザインされているので、後ハメ加工は不要です。作例はアンテナの不具合を切り取っただけです。

### ■胸部

胸部を胸部に固定する出っちは、真中側を残してすべて切り取ります。

肩関節フレームは既製品に影響しない部分を選び、固定させながら差し込めるようにしてみました。

フロントアーマーは足裏と並び中央で分割、左右を独立可能とさせてあります。

### ■腕部

肩アーマーは腕受けの腕部を開くハの字加工。腕受けは強度を上げるために内容の上側がわずかに変形させてあります。そのため、下側をハの字加工すると接合部が重くなるので注意です。

肩関節ブロックはアーマーの幅に合わせて軸を短く削ったほか、上側の回転時に後ハメ用の軸穴を開けておきます。

上腕フレームは肩関節に付いている円形のスリッパを軸の幅より小さく加工。

前腕フレームは肩関節をハの字加工。さらに、シールド接続部をヒジ関節の厚さと同じになるまで削って接続のしやすさ。

前腕はマウントラッチの上にある接合ピンが後ハメ時に邪魔になるので切り取ります。

### ■脚部

後ハメ加工が必要なのは足首のみです。アーマー側の腕受けをハの字加工し、肩関節フレーム側は軸を短くしておきます。

### ■塗料

塗料は特に特筆しないのでそのままです。サブ・アームを動かすのが結構楽しいアドバンスユニット(勝手に命名)も、後ハメ加工が必要な箇所はありません。

塗装済みのセンチュリー・モのアキカバが形ハーツに見えなかったんで、スリットを彫り込んでいます。ツブモノは指定通りの細い線幅を彫り込んでおきましょう(笑)

### ■PROF.小池

こまごま たかやき 未来の本征を扱う(?)高専モーターの一人。最近、今日色々あって製作時間の短縮記録を更新。通常の効率を上げればさらなる短縮ができるかも。いやしたくないです。(Zガンダム古いサブ記と改)



■足底の補助スラストユニットは、あえてシールパーツの色を変えて増加ハーツっぽさを演出した。



■ヒザアーマーの両面も合わせ目が出る部分のひとつだが、入り組んだ場所なので、合わせ目を消すづらいため、作例では既製品加工を加えてハネライライン部に追加してある。



## カラーリングデータ

### ヘイズル本体

- 1 グレー(肉) 1層・ホワイト 50%+30層・明灰色 50%
- 2 グレー(頭) 1層・ホワイト 50%+14層・ネービーブルー 30%+2層・ブラック 20%
- 3 青 80層・トフトブルー 50%+85層・インディブルー 30%+4層・ブラック 20%
- 4 藍色 85層 藍色 50%+1層・ホワイト 30%+58層・オレンジ 10%
- 5 赤・64層・モンパレット 100%
- 6 緑・68層・ディテングリーン 80%+1層・ホワイト 30%
- 7 アドバンスユニット
- 7 白 1層 ホワイト 100%
- 8 黒 2層 ブラック 85%+88層・インディブルー 20%



■アングルアーマーはキットでも合わせ目が目立たない構造になっているが、合わせ目を消したい場合はアーマー裏の腕受けの白く塗った部分をハの字に削って置き、足関節の軸を短く加工しておけばOK





# MAXIUM GACANT TR-5 SILVER

EPISODE 50で初めてその存在が明らかになったT3部隊の最新鋭機、TR-5[ファイバー]。

EPISODE 52でようやくその性能の一端が明らかとなった。

次回はソラが所属するカフバの部隊との戦いも見られるはずだ。

今回はこの[ファイバー]の全貌を立体物で公開。

「HGUCギャプラン」を基準に、愛山電機が手掛けた超大型モデルをこ驚いたところ。

# ギャプランTR-5[ファイバー]、遂に完成!



その名が示すとおり、オーグランドのニュータイプ研究所で開発を行っていた可変MA、ギャプランがベースになっているが、T3部隊によって大規模な改良が加えられている。その基本的なコンセプトは「弾道軌道による極高速運動」にあり、旧世紀に開発されたICBM(大陸間弾道弾)と同様、地上から一度大気圏外に脱出、そのまま再突入軌道に入り、引火の作用によって得られる強大な加速をもって目標地点へと到達する。この時、機体は超音速不可能な速度まで加速するため、従来の兵器ではその迎撃を阻止することはできないとされている。そして、TR-5[ファイバー]とICBMとの決定的な違いは、目標地点への到達後、運動兵器としての柔軟性を失ったよりピンポイントな破壊活動が行える点にある。この点からも、最高速度運動として開発されたギャプランがベースとして選ばれたというのからするだろう。実際にマーズ・小隊が行った作戦では、大気圏外の宙域からの発進となったが、それでも直攻運動という意味では問題はいらない。



「ファイバー」の主要武器。近接用のミサイルを撃退するための装備。通常はカバーが隠れているが、使用時にはカバーは強制開きされる。



機体両脇前面に配置された「フィールド・ジェネレーター」。近接用の対ヒーム兵器が主目的だが、大気圏突入の際の摩擦熱の軽減にも利用される。



ギャン本体のセンターアーマーに固定されている機首ハープ。香煙センサーの両側より、上面では十字状のモノアイズリットも取り付けられている。



近接ヒーム戦のためのEハックホルダー。Eハックそのものは、通常のヒーム兵器と同じ仕様のものとなっているが、出力を維持するため大量に使用される。



機体両側面にあるバンダーには、「ヘイズル」や「キハール」と同様のデザインの縦溝が取り付けられている。



「フィールド・ジェネレーター」とバンダーを繋ぐアーム。大気圏突入後のエアブレーキとしてバンダーを動かすためのものと推測されるが詳細は不明。



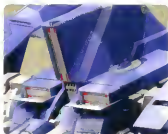
大気圏突入時に機体全体を冷却するためのフィールド発生器。「ファイバー」の機体下面に取付けられており、搭載した2機のMSまでフォローできる風出力が特徴。



下面のバンダーはプロペラントタンクを兼ねたメインスラスターとなっており、手雷空爆はもとより、大気圏内で飛行するための巨大推力を生み出している。



「ファイバー」本体とバンダーとを繋いでいるのは「キハール」にも使用されているトラム・フレームを大型化したもの。これを使ってバンダーを動かすようになっている。



「ファイバー」の機体上面には、T3型等の機体と共通で使用されている新型ジェネレーターが3機搭載されている。



「ファイバー」のコアユニットでもあるギャンランを保護するため、機体前面には大型の装甲が取り付けられている。

## ORX-005

## ギャプランTR-5(ファイバー)

1/144スケールスクラップビルト  
製作・文 空山竜司

得意、得意スクラップ組立ソリウワでございませ  
前回のTR-4(タンディアライアン)で満ちて、この[ファイバー]の製作経験をかけたのが今回の書 イベントやメーカーの仕事と並行して製作していただくとする時間があつたと思います。

[タンディアライアン]に比べ、ギャプランをコアとする機体の機体自体はそれほど複雑ではなかったものの、設定画の雰囲気を損なわないような(ラフな)面取りと大きさからくる強度の確保に悩まされました。

[バインダー]の機体前面に着たによるストレスがかかることは設定画から知らかったのですが、まず基本となるフレームをシンチュウパイプで製作  
コアになるギャプラン機体は[MGUC]をそのまま使い、プラ板で少しづつそれを覆い隠していくような感じで外装をブロックごとに製作

細かなディテールアップに[MGボール]のハーツを流用いかにそれと見えないようにするかの洗練のポイントですが、汎用性の高いものがあつたのでかなりいろいろな便をもらいました

基本的に見えないところは作らないというのがオレのスタンダードですが、大気圏突入とかで下面がバッチリ見ちゃうのでいかに見えないようにしました

参考までに[タンディアライアン]で作ったハーツは約500個ですが、この[ファイバー]では約600個を越えています。色分けなどのハーツ分割とがなければもつと作ることもできたのですが、笑いのネタになるかなと思って

この[ファイバー] 実はこれで終わりというわけじゃなく、少しばかり修正ネタがあつたりするので、まだしばらくはスティングに自分を出し込んで日々が経ちます(笑)

## ■PROFILE

司令官 クラウ・本機機体17のバイカーモーター(あくまでバイクの部) 近況 このファイバーの機体の組み立てに満足するほどなのですが、6月頃にカウントダウンしようと思っていたのに実況が16日午前2時、突然に届くまでお断りし通された。なかなかない30分のスタートを切ることができました(笑) (2ガンダムおひりリノ・テラス(タフ・コロラ))

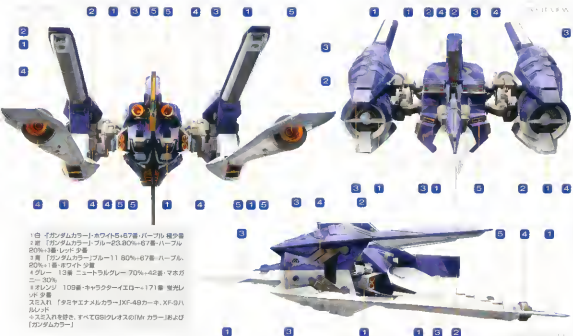


[ファイバー]の機体後方に設けられたスラスター・ユニット ギャプランの背面スラスターと黒化した機体になっているほか、下面には補助センサーも設けられている。



[ファイバー]のコア・ユニットであるギャプランは、両腕のバインダー・シールドが外され、顔部に[ヘイズル]と両腕のセンサーユニットが設けられた以外は、ほぼベースの機体そのままだで使用されている

## カラーリングデータ









電撃ホビーマガジンスペシャル

# ADVANCE OF Z

アドバンス・オブ・Z

～ティターンズの旗のもとに～

Vol. 4

## STAFF

編集:佐々木誠、電撃ホビーマガジン編集部

編集協力:片岡大輔(アークライト)

編集補助:蟹止ゆき子、尾崎聖、杉本由香里

アートディレクター:CREATIVE STATION BEE-PEE(児玉貴志)

表紙・デザインDTP:CREATIVE STATION BEE-PEE(永田敏之、SOKURA)

撮影:L-CRAFT

協力:株式会社サンライズ・ライツ事業部ガンダム課

株式会社/ソフダイ・ホビー事業部

発行:2006年2月15日 初版発行

発行人:奥野潔

編集人:佐藤忠博

発行所:株式会社メディアワークス

〒101-8305 東京都千代田区神田駿河台1-8 東京YWCA会館

電話 03-5281-5236(編集)

発売元:株式会社角川書店

〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3

電話 03-3238-8605(営業)

印刷・製本:凸版印刷株式会社

※本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

Printed in Japan

盗丁・乱丁本はお取替えます。

ISBN4-8402-3357-8 C9476

雑誌B4883-66



Vol. 3

電撃ホビーマガジンに掲載された  
雑誌第1巻、21  
巻、22巻、23巻、  
24巻～29巻を収録。  
定価:961円  
(税込)



Vol. 2

電撃ホビーマガジンに掲載された  
雑誌第3巻、11巻、  
13巻、15巻、17  
巻を収録。  
定価:881円  
(税込)



Vol. 1

電撃ホビーマガジンに掲載された  
雑誌第1巻、3巻、  
5巻、7巻を収録。  
定価:830円  
(税込)

ADVANCE OF Z  
THE FLAG OF TITANS



# アドバンス・オブ・ゼータ ADVANCE OF ティターンズの旗のもとに

原作 富野由悠季・矢立肇

作画 みずきたつ

**1・2 好評発売中!!**

定価:各578円

月刊コミック  
電撃大王  
毎月21日発売  
好評連載中!

コミック版も  
絶好調!!

若きパイロット達は



戦いの中に何を見るのか——。

ティターンズに配属された若き若きエ  
アールドは、ガンダムを冠したMS。  
は戦える仲間とともに誇りを持って  
戦っていく。  
そんな中、ティターンズによる未曽有  
の大攻撃「30%」の事件! 必死に  
エアールドたちは知らず知らずのうちに  
時代の流に巻き込まれていくので  
あった——



## Zガンダムマスターズ

ガンブラ製作事例40選

劇場版「機動戦士Zガンダム-星を継ぐ者-」に登場するMS全11機を設定と共に完全紹介!!

好評発売中

A4変型判 カラー148ページ  
定価2,310円

**第2弾 Zガンダムマスターズ2 2月28日発売予定** 予定2,415円

「Zガンダム」や「キャベレ」など劇場版「機動戦士Zガンダム」第2弾「市人たち」および第3弾「星の鼓動は愛」登場MSを徹底攻略!!



# 機動戦士ガンダム MS大全集2006

MOBILE SUIT Illustrated 2006

■ 予価:2,625円 ■ 3月発売予定

- モビルスーツ他700体以上の設定資料、スペック、欧文表記まで詳しく掲載!
- 表紙はカトキハジメ氏描き下ろし!!
- 「SEED DESTINY」までのTVシリーズ完全網羅!  
「A.O.Z」「MS IGLOO」などに登場するMSも収録!

## 2つの大全集緊急大改訂!!

CHARACTER ENCYCLOPEDIA

# 機動戦士ガンダム キャラクター大全集2006

■ 予価:3,465円 ■ 3月発売予定

- 「SEED DESTINY」までのTVシリーズや、「A.O.Z」「MS IGLOO」などに登場する  
**メイン/サブキャラクター1,100人以上の**  
設定画&データを完全収録!
- カラーページのデザイナー一新! 欧文表記も追加!
- 表紙は平井久司氏描き下ろし!

君はもう手にしたか!? 伝説の「MS大図鑑」が豪華ボックスで発売中!!

エンターテインメント・バイブルシリーズ

機動戦士ガンダム  
MS大図鑑 宇宙世紀ボックス

豪華ボックス仕様

定価 10,500円

### セット内容

- MS大図鑑(全3冊)1冊
- MS大図鑑(全3冊)1冊
- MS大図鑑(全3冊)1冊
- MS大図鑑(全3冊)1冊
- MS大図鑑(全3冊)1冊
- MS大図鑑(全3冊)1冊



MediaWorks

発行 メディアワークス 発売 角川書店  
<http://www.media-works.co.jp/> 各店舗お問い合わせは03-5561-0101

Copyright © 2006 MediaWorks  
 All Rights Reserved.



ガンダム1/144 HGUC「ガンダムTR-1」[ヘイズル改] 製作記事掲載!!

電撃ホビーマガジンスペシャル

THE FLAG OF TITANS Vol.4 DENGEKI HOBBY MAGAZINE SPECIAL

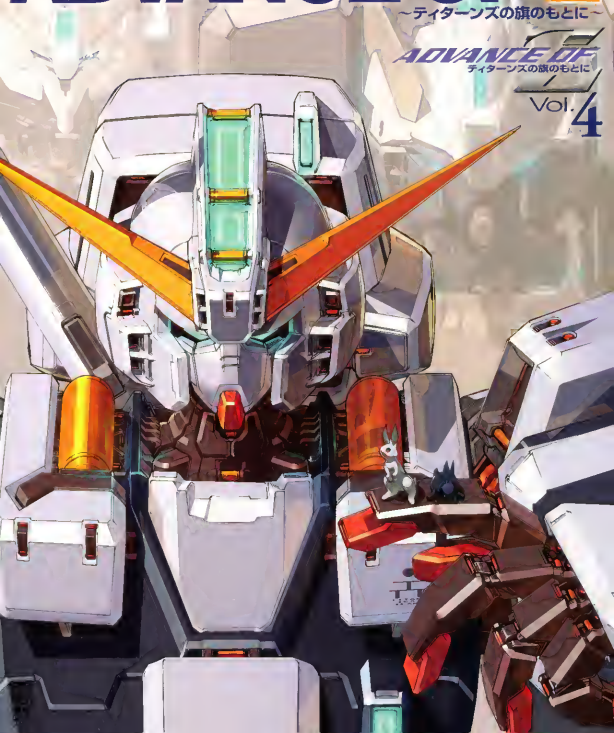
# ADVANCE OF

アドバンス・オブ・Z

～ティターンズの旗のもとに～

ADVANCE OF  
ティターンズの旗のもとに

Vol. 





**ADVANCE OF Z**  
**THE FLAG OF TITANS Vol.4**



9784840233576

ISBN4-8402-3357-8



1929476008206

C9476 ¥820E

雑誌 64663-66

 **MediaWorks**

発行 ● メディアワークス

©Media Works 2006

印刷 ● 凸版印刷株式会社 Printed in Japan

©新進エージェンシー サンライズ

定価： **本体820円**

※消費税が別に加算されます



DEKI  
MATAI

デキ  
マタイ

ZEXCS

TITANS

デキマタイ

デキマタイ

デキマタイ

デキマタイ

デキマタイ

デキマタイ